



平成28年度 第66回高知県芸術祭



第66回高知県芸術祭事業実施報告書

発行日 平成29年3月17日

発行 高知県芸術祭執行委員会
高知市高須 353-2 (公益財団法人高知県文化財団内)
TEL 088-866-8013 FAX 088-866-8008

印刷 弘文印刷株式会社
高知県高知市与力町 5-16
TEL 088-822-0240

県民の
芸術文化活動を
支援・発信
していきます

事業実施報告書

平成28年度 第66回高知県芸術祭事業実施報告書

目次

平成28年度第66回高知県芸術祭を顧みて / 高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納朋代	2
第66回高知県芸術祭概要	3
「日露交歓コンサート2016」を終えて / 高知県芸術祭執行委員会事務局	5
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」 募集要項・助成事業紹介・報告	7
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」 事業実施報告会	18
第45回高知県芸術祭文芸賞 募集要項・応募状況等・入選作品一覧	32
共催行事	35
協賛行事	39
<資料> 共催・協賛行事参加申請書 高知県芸術祭執行委員および文芸賞審査員名簿	49

芸術祭とは

芸術祭 = 広く県民が芸術に親しみ、高知の芸術文化の魅力を再発見、発信する期間



平成28年度第66回高知県芸術祭を顧みて

高知県芸術祭執行委員会
委員長 新納 朋代

今年で66回目を迎えました、『高知県芸術祭』は、広く県民が芸術に親しみ、高知の芸術文化の魅力を再発見、発信する期間として毎年秋に開催しております。今年度は、9月15日(木)～12月11日(日)までを会期とし、期間中、県内各地で90以上の行事が開催されました。

また、芸術祭の開幕日である9月15日(木)には、高知県立美術館ホールで、翌日の16日(金)には、佐川町桜座で、高知県で初となる「日露交歓コンサート2016」を開催いたしました。聴衆は、県内から広く募集し、2日間ともに多くの来場者に恵まれ大盛況となりました。県民がクラシック音楽に親しむ機会として、芸術祭の開幕を告げる大きな役割を果たせたのではないかと思います。

今年度の芸術祭では、主催行事「日露交歓コンサート2016」・「高知県芸術祭文芸賞」、助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」9事業、共催行事21、協賛行事66、の計98の行事等が実施されました。共催・協賛行事に関しましては、昨年度より若干の減少がございましたが、これは、団体の代表者さまが引退された、日程が合わない等で毎年参加いただいていた団体さまが不参加となったということなどが挙げられます。一方で今年度は、新規でご参加いただいた団体さまも数件あり、少しずつではありますが、参加団体に広がりがみえているように思えます。

今年で3年目となります、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」に関しましては、4月下旬頃より県内の文化施設や文化・芸術団体へ広く広報周知を行いました。その結果、昨年度より3団体多い、20の団体・個人よりご応募いただき、審査の結果、次の9事業への助成を決定致しました。「KOCHI TO BRASIL コウチトブラジル」(土佐市)、「奏でるピアノで紡ぐきずな in 立川御殿」(大豊町)、「Animator in Paradise -あにめのいろは-」(大月町)、「『お國と五平』上演プロジェクト in 八畝」(大豊町)、「高知演劇ネットワーク演会プレゼンツ 演劇実験空間蛸蔵ラボ vol.3」(高

知市)、「AからZ(アートゾーン)で考える ワクワク減災力～段ボールハウスキャンプ&防災クイズ」(高知市)、「AからZ(アートゾーン)で考える 高知の森林鉄道∞」(高知市・中芸5町村)、「SUSAKI (art) ASSEMBLE」(須崎市)、「Artist in residence Kochi 2016」(土佐市)、これまでに比べ、開催場所(市町村)に広がりが見られ、これからの未来を担う新規団体の台頭がみられたように思います。また、1月29日(日)には、助成9団体における事業報告会を開催いたしました。報告会では、各事業の成果や反省点などの報告を行い、採択団体と芸術祭執行委員に加え、芸術祭参加団体などの聴衆と広く意見交換を行うことができました。

また、文学の総合的な公募型文芸賞である「高知県芸術祭文芸賞」は、45回目を迎えました。短編小説・詩・短歌・俳句・川柳の5つの部門で、計726名(1758作品)の応募があり、昨年度と比較すると313作品284名の増となっております。本年度は近年課題となっていた若年層からの応募が大幅に増加いたしました。応募総人数726名のうち、実に約半数が19才以下という結果となり、執行委員会をはじめ事務局一同、大変嬉しく思っております。今後も文芸創作の楽しさを忘れることなく、創作活動を続けていただけるよう、引き続き高知県の文芸創作繁栄に尽力して参りたいと思っております。

本報告書では、平成28年度高知県芸術祭の成果をまとめております。各所より意見をいただきながら、より一層広報を充実させ、多くの県民に『高知県芸術祭』を承知いただけるよう、高知県芸術祭執行委員・事務局共に一丸となり努めて参りたいと思っております。今後とも、より一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*助成事業「KOCHI ART PROJECTS」: 9事業・3,183名
主催行事「高知県芸術祭文芸賞」: 726名(1,758作品)
「日露交歓コンサート2016」: 704名(来場者)
共催行事: 21行事・57,135名
協賛行事: 66行事・103,654名

第66回高知県芸術祭 概要

《今年度の芸術祭を振り返って》

今年度のオープニングイベントは、ロシアのチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院の教授や研修生8名をお招きし、高知県では初となる「日露交歓コンサート2016」を開催いたしました。「日露交歓コンサート」は毎年、日本全国各地で開催されておりますが、高知県ではまだ開催されておりました。主催者である国際音楽協会さまより開催の打診を受け、満を持しての開催となりました。予想を超える数の観覧希望者があり、高知でのクラシック音楽人気を実感いたしました。コンサートは、大盛況のうちに幕を閉じ、観客者のアンケートでは、約90%以上の方から、「とても良かった」「良かった」と評価いただきました。また、国際音楽協会、ロシアの演奏家からも、「また高知に戻ってきたい」というお言葉をいただき、高知県芸術祭の始まりを華々しくPRできたのではないかと感じております。日露交歓コンサートの開催に際し、ご尽力いただきました、国際音楽協会の皆さま、演奏家の皆さま、関係スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。

今年で3年目となりました、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」では、昨年度より2団体多い9つの団体・事業が採択されました。事業の開催場所に広がりも見られ、内容的にも充実したものが多かったように思います。芸術祭参加団体においても、参加行事数に減少がみられたものの、新規参加団体も増え、高知県芸術祭の知名度の広がりも少しずつではありますが

が進んでいることを実感しております。

また、近年芸術祭では広報に力を入れております。文芸賞では、4月の早い段階で審査員の先生方にご出席いただき、打ち合わせ会を開催し、募集要項の見直しや広報に関する助言をいただきました。広報物の作成に関しましては、広報物の増刷の他、昨年度より、芸術祭執行委員の広報専門委員2名の方に、広報活動についての制作、助言等をいただいております。今年度の広報物は、デザイナーさん、広報専門委員2名と事務局とで打ち合わせを重ねながら作成して参りました。特に、文芸賞の広報物においては、これまでにないデザインであった為、多くの方々より、「広報物がとても良かった」という声をいただきました。その効果もあってか、文芸賞の応募者数が大幅に増加したのに加え、応募総人数726名のうち、実に約半数が19才以下という結果から、これまでの課題であった若年層の応募減少に改善がみられたことは、嬉しいことでした。

今後も、現状に満足することなく、多くの県民に『高知県芸術祭』をきっかけに県内各地へ足を運んでいただけるよう、芸術・文化の楽しさを伝えていきたいと思っております。

本報告書では、芸術祭主催行事（「日露交歓コンサート2016」・高知県芸術祭文芸賞）、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」、芸術祭共催・協賛行事について、報告を記載しております。是非、ご高覧ください。



《高知県芸術祭公式ガイドブック》

開催期間

平成28年9月15日（木）～12月11日（日）

主催

高知県・公益財団法人高知県文化財団

主管

高知県芸術祭執行委員会

後援

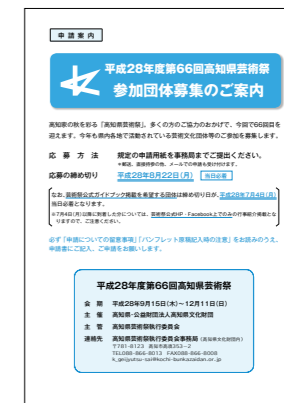
NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・KCB高知ケーブルテレビ・エフエム高知

平成28年度 第66回高知県芸術祭 日程表

- 4月4日 平成28年度第45回高知県文芸賞 打ち合わせ会
◆打ち合わせ内容◆
(1) 自己紹介
(2) 平成27年度高知県芸術祭文芸賞の報告
(3) 平成28年度高知県芸術祭文芸賞のスケジュールについて
(4) 作品募集要項の見直しについて
(5) 作品募集広報について
(6) その他
- 4月26日 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」募集チラシ・要項 発送(募集締切 5月31日)
- 5月24日 芸術祭参加団体募集案内発送
(募集締切 8月22日 ※芸術祭公式ガイドブック掲載希望分 締切:7月4日)
- 6月24日 第45回高知県芸術祭文芸賞作品募集チラシ 発送(募集締切 9月30日)
- 6月26日 第1回高知県芸術祭執行委員会およびKAP審査会(ちより街テラス3階・貸会議室4)
〈議事〉助成事業二次審査方法について
〈報告〉(1)平成27年度高知県芸術祭決算報告について
(2)芸術祭広報の進捗状況について
- 6月30日 「日露交歓コンサート2016」広報チラシ 発送
- 7月17日 「日露交歓コンサート2016」広告 高知新聞朝刊へ掲載
- 8月19日 芸術祭公式ガイドブックおよびチラシ兼ポスター 発送
- 9月6日 第2回高知県芸術祭執行委員会(高知県立美術館・2階会議室)
〈議題〉KAP助成事業の視察について/「KOCHI ART PROJECTS」審査基準等について
〈報告〉(1)共催、協賛行事の参加状況について
(2)芸術祭広報について
(3)日露交歓コンサートについて
(4)今後の日程について
- 9月15日 第66回高知県芸術祭開幕
「日露交歓コンサート2016」(高知県立美術館ホール)開催
KOCHI TO BRASIL コウチ ト ブラジル 開催(KAP助成事業)※9月18日迄
- 9月16日 「日露交歓コンサート2016」(佐川町桜座)開催
- 9月17日 奏でるピアノで紡ぐきずな in 八畝(KAP助成事業)開催
- 9月18日 Animator in Paradise- あにめのいろは -(KAP助成事業)※12月11日迄
- 9月22日 『お國と五平』上演プロジェクト in 八畝(KAP助成事業)※9月25日迄
- 10月1日 高知演劇ネットワーク演会プレゼント 蛸蔵ラボ vol. 3(KAP助成事業)※10月2日迄
- 10月8日 A から Z (アートゾーン) で考える
ワクワク減災力～段ボールハウスキャンプ&防災クイズ(KAP助成事業) ※10月9日迄
- 10月15日 A から Z(アートゾーン)で考える 高知の森林鉄道∞(KAP助成事業)※12月11日迄
- 10月17日 第45回高知県芸術祭文芸賞審査会(高知県立美術館・2階会議室)※10月23日迄(内、5日間)
- 10月21日 SUSAKI(art) ASSEMBLE(KAP助成事業)※11月30日迄
- 10月31日 Artist in residence Kochi 2016(KAP助成事業)※12月25日迄
- 11月27日 第45回高知県芸術祭文芸賞 表彰式(高知県立文学館ホール)

平成29年

- 1月29日 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」事業報告会(高知県立歴史民俗資料館・多目的ホール)
- 3月29日 第3回高知県芸術祭執行委員会(高知県立美術館・2階会議室)



《芸術祭参加団体募集のご案内》



《「日露交歓コンサート2016」チラシ》



《芸術祭広報チラシ兼ポスター》

注) KAP … KOCHI ART PROJECTS

「日露交歓コンサート2016」を終えて

高知県芸術祭執行委員会事務局

高知県では初開催となる『日露交歓コンサート』。高知県芸術祭のオープニングイベントでもあるこのコンサートを絶対に成功させないといけない。一人でも多くの県民の方々に一流の演奏家のコンサートを聴いていただき、芸術祭の開幕を華々しく告げたいという、熱い思いをもちながら、コンサートの準備は手さぐり状態からスタートしました。7月には、聴衆の募集を行いました。初開催ということもあり、人が集まるかの心配もありましたが、予想を超える数の応募があり、あとは当日を待つのみとなりました。

開催日の前日、「Welcome to Kochi. I am～」心の中で、そう呟きながら私は、高知龍馬空港の到着ロビーで今か今かと演奏家の方々の到着を待っていました。

このコンサートは毎年、日本各地で行われているということもあり、彼らは日本に慣れているとは聞いていましたが、私自身、外国人と触れ合うのは初めてでしたので、これから彼らが滞在する4日間を無事にやり遂げられるのか不安で一杯でした。しかし、そんな私の気持ちを打ち消すかのように、到着ゲートから出てきた彼らは、片言の英語で挨拶する私に、にこやかに握手、そして挨拶を返してくれたことが印象に残っています。

彼らと一路りハーサルのため、高知県立美術館ホールへ向かいました。初めて彼らの演奏を聴いた時には技術の高さに驚きました。そして、きっと素晴らしい演奏会になるに違いないと確信しました。

彼らが高知に滞在する間、私はずっと行動を共にしてきました。日本語が分からない彼らと、英語が分からない私でしたが、不思議と意思疎通に苦労することはありませんでした。ジェスチャーや片言の言葉を交え、交流を深めることができました。特に、食事を一緒にした際には、高知の料理に対して、英語の分からない私にもわかるように、いつも「Very good.」と何回も繰り返し、高知の食文化を褒めて下さりました。その様にして、いつもさりげなく気配りをしてくださっていることが、その表情からひしひしと伝わり、とても嬉しく感じたことを覚えています。

そして9月15日(木)遂に、コンサート本番。コンサートは、ショパンやプッチーニ、バッハといった日本人にも馴染み深い楽曲をはじめ、『バラライカ』や『ドムラ』といったロシアの代表的な弦楽器での演奏もあり、聴衆は素晴らしい音楽の音色に魅せられていました。特に、この高知公演では、エレジー・トリオ『ある建築家の思い出』という楽曲の演奏と日曜市などが映った地元映像とのコラボレーションが行われました。映像は、高知で写真家として活躍されている長野野敬さんに依頼し、地元に着した作品を作成していただきました。アンケートでは、このコラボレーションがとても良かったという感想を多くいただき、聴衆の皆さんに改めて地元高知県の良さを伝えられたのではないかと考えております。コンサート終演後も、聴衆の方々より、一流の演奏家のコンサートを聴けてとても良かった、また開催してほしいという声を多くいただき、初日は大盛況のうちに幕を閉じました。

翌日、9月16日(金)は、高知市を離れ、佐川町桜座で公演を行いました。開演1時間前から既に長蛇の列となっていました。みるみるうちに会場は超満員。そして開演時間前、移動中や休憩中は、冗談が飛び交うほど和やかに過ごしていた彼らでしたが、いざ本番となると誰も寄せつけない集中力で、さすが超一流だと感心をしたことは今でも忘れることはできません。コンサートは順調に進み、佐川町公演も大盛況のうちに幕を閉じました。聴衆の方々より、地元でこのような素晴らしいクラシックコンサートを聴けて感動した。また佐川町でやっていただきたいという声を多くいただきました。準備段階からご協力をいただきまし



た佐川町教育委員会の皆様、本当にありがとうございました。

佐川町桜座での公演後は、一路、高知市に帰り、演奏家やスタッフを交え、交流会を行いました。交流会では、高知県文化生活部 高橋副部長の挨拶を皮切りに、演奏家を代表して、キリル・ロディン氏の日本語を交えた挨拶、乾杯後は自慢の土佐料理とお酒を楽しみつつ、SGG善意通訳クラブの方々の通訳を交えながら、和気あいの雰囲気の中で交流会を進めることができ、高知最後の夜を楽しんでいたのではないかと考えております。



こうして、彼らと過ごした4日間はあるという間に過ぎ、彼らとの別れの時がやってきました。空港では、彼ら一人ひとりが、私に駆け寄り、「Thank you. See you again.」と声をかけてくださいました。特に、普段、言葉少なく物静かなキリル氏が日本語で「お疲れさま。ありがとう。」と、言ってくださったことは強く心に残っています。彼の人柄が垣間見えた瞬間でもありました。

彼らを見送った後、空港を出た私は、この4日間を振り返り、疲労感と充実感を握りしめ、こう彼らに心の中でつぶやきました。

「See you again. またお会いしましょう。」



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」 募集要項

《地域×アート》をコンセプトに高知県内で開催される芸術文化活動に助成等の支援を行います。

○対象となる活動

- 地域住民が主体となって取り組む芸術文化活動で、その地域の自然や町並み、歴史・文化など地域資源を活かした企画内容であるもの。
 - 平成 28 年度高知県芸術祭開催期間中に実施されるもの。
- 芸術祭会期 平成28年 9月15日(木)から平成28年12月11日(日)**
- 営利を目的としないもの。

- ※ 事前の準備に係る費用も助成の対象となります。
- ※ 個人でも団体（NPO・実行委員会等）でも応募いただけます。

○支援内容

助成：1 事業あたり上限額 50万円

- ※ 少額（10万円程度）での申請も可能です。
- ※ 選考委員会にて、提出された申請内容と申請額を勘案し助成額を決定いたします。
- ※ 過去に助成を受けたことのある団体も応募できます。

○支援条件

- 広報物等に指定クレジット等を必ず記載すること。（記載のない場合は助成交付を取り消す場合があります。）
 - 事務局が作成する広報物への原稿作成等の協力ができること。
 - 支出経費について領収書を保管、指示があった場合はすぐに提出できること。
 - 指定の様式により実績報告を提出すること。（事業終了後1ヶ月以内。）
 - 後日開催予定の報告会において、事業報告及びパネルディスカッション等に必ず参加すること。（日時：平成 29 年 1 月 29 日（日） 会場：高知市内）
- ※ 指定クレジットは、芸術祭公式ホームページからダウンロードできます。
 ※ 採択された事業は高知県芸術祭執行委員等が視察し、その報告を高知県芸術祭ホームページ等に掲載します。
 ※ 報告会参加に伴う旅費等の費用は各自ご負担ください。
 ※ 助成団体のうち、1 団体以上は、領収書を含め支出の詳細について確認致します。

○応募方法

募集期間内に、規定の申請用紙に必要事項を記入し、高知県芸術祭執行委員会事務局まで持参、もしくは郵送にてご提出ください。

- ※ 申請用紙は、芸術祭公式ホームページからダウンロードできます。
- ※ 申請用紙を送付希望の方は、下記問い合わせ先までご依頼ください。
- ※ 応募後、電話等によるヒアリング、追加資料の提出等を求める場合があります。

○募集期間

平成28年 5月31日(火)まで ※当日必着

○選考方法

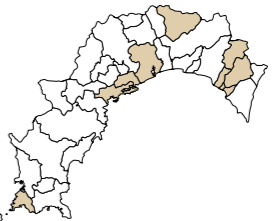
書類選考による一次審査を行い、追って二次審査として選考委員会にてプレゼンテーション（平成28年6月26日(日)開催）を行っていただき選定します。結果は7月初旬に郵送にてお知らせいたします。

○助成金の交付

所定の請求書提出後 2 週間以内に、指定先口座に振り込みます。
※ 事務局にて必要と認めた場合に限り、助成決定額の 2 分の 1 を超えない範囲で概算払も可能です。



《募集チラシ 表面》



★ 助成事業紹介 ★

(平成28年度選考結果 20団体・20事業応募、9 団体・9 事業選定) :

KOCHI ART PROJECTS 2016

KOCHI TO BRASIL コウチ ト ブラジル

Capoeira Batuque Japão Kochi カポエイラ・バトゥーキ・ジャパオ高知
9月15日(木)～9月18日(日)
【会場】ドラゴン広場(土佐市)

- ブラジルの高知の文化写真展
15日(木)～18日(日)
【料金】無料
- ブラジル料理教室
18日(日) 12:00～14:00
【料金】2,000円(原材費込)
- ブラジルの楽器を作ってみよう!
18日(日) 12:00～13:00
【料金】500円
- ホーダ・ジ・カポエイラ(演奏)
18日(日) 15:00～17:00
【料金】無料

【問合せ】080-3163-4434 (伊藤)
【HP】http://capoeirakochi.jimdo.com/

情熱の国・ブラジル。今年はオリンピックでも注目されています。世代を問わず高揚感を与えてくれる、カポエイラ・サンバなどのブラジル文化。触れて、感じて、参加者みなで高知に大きなエネルギーを生み出しましょう!

高知演劇ネットワーク演会プレゼンツ 蛸蔵ラボ vol.3

高知演劇ネットワーク演会
10月1日(土) 上演 17:30～19:30 / 交流会: 20:00～22:00
10月2日(日) 上演 14:30～16:30

【会場】多目的ホール「蛸蔵(たこくら)」(高知市南金田28)

【料金】前売: 一般 1,500円 / 学生 1,000円
当日: 一般 2,000円 / 学生 1,500円

【問合せ】080-3165-6889 (吉良)
【HP】http://www.kochi-engeki.net

公募により集まった県内外の劇団やユニットによる、表現者育成や技術向上と交流が目的の演劇実験公演です。才能がぶつかり合う2日間をお見逃しなく。初日終了後には「演会大おしゃく」を開催します。これからの高知の舞台芸術について、熱く語り合ひましょう。

AからZ(アートゾーン)で考える ワクワク減災力～段ボールハウスキャンプ&防災クイズ

シアター TACOGURA
10月8日(土) 13:30～10月9日(日) 10:00

【会場】多目的ホール「蛸蔵(たこくら)」(高知市南金田28)

【料金】800円(イベント保険・夕食・朝食 含む)

【対象】小学校3年生～小学校6年生

【募集人数】20名

【問合せ】090-2897-7033 (坂下)
【HP】http://theater-tacogura.wix.com/kochi

いずれ起きると言われている「南海トラフ大地震」。避難所では長く慣れない生活を強いられる可能性があります。「おうちに帰れない時、どこでどうやって過ごせばいいの?」子どもたちと一緒にワクワクしながら学びましょう。生きる知恵と力を身につけます。

Animator in Paradise - あにめのいろは -

大月町地域資源活用協議会 一大月町制施行 60 周年記念ー
9月18日(日)～12月11日(日)

- プレイベント 9月18日(日) 10:00～
- 【会場】道の駅大月、おつきふれあいマーケット
- ワークショップ・公開制作(期間中)
- 【会場】大月小学校 他
- 上映・発表会 12月10日(土) 13:00～
- 【会場】大月町農村環境改善センター

※今回制作したアニメーションを上映します。
※詳しい日程はHP、ブログ、facebook ページ等で随時お知らせします。

【後援】デンマーク大使館、大月町

【料金】ワークショップ 3,000円 上映会 1,000円 ※大月町在住の方、高校生以下の方は無料
【問合せ】090-6707-6698 (岡崎)
【HP】http://www.anim8paradise.net

秘境の楽園・大月町とアニメーションを兼しよう! 11～15分ほどの短編アニメーションを見たり、地域で集めた素材で大月町に暮らす人々や訪れるみなさんと作家さんの交流からアニメ・モンスターがうまれる～? きて・みて・いっしょにつくらう★

『お国と五平』上演プロジェクト in 八咫

『お国と五平』上演プロジェクト・大豊シャクヤクの会
9月22日(木・祝)～9月25日(日)

- 昼食会と八咫地キビ収穫体験
9月25日(日)
- 『お国と五平』上演
9月25日(日) 17:00～18:00
- 【会場】大豊町八咫地区 大谷榎前棚田(雨天の場合:八咫集会所)
- 【料金】前売・当日共: 大人 2,000円 中高生 1,500円 小学生 500円 ※未就学児は無料
- 『お国と五平』ドラマリーディング・ワークショップ(要事前申込)
第1回: 9月22日(木・祝)
第2回: 9月24日(土)
- 【会場】大豊町八咫地区 八咫集会所
- 【料金】無料
- 【問合せ】090-7622-3502 (西村)
【HP】http://theater-tacogura.wix.com/kochi

国内有数の、棚田の撮影スポットとして知られる大豊町八咫。その名高い段々の傾斜を借りに、野外演劇を上演します。雄大な棚田の風景で地キビの収穫を体験し、その焼酎と共に、野趣あふれる料理も一緒にご堪能ください。

SUSAKI ART ASSEMBLE

すさき芸術のまちづくり実行委員会
10月21日(金)～11月30日(水)
9:00～17:00

【会場】須崎市内各所
※インフォメーション: すさきまちかどギャラリー

【料金】無料

【問合せ】050-8803-8668 (すさきまちかどギャラリー)
【HP】http://machikado-gallery.jimdo.com/

今年で4 回目を迎える「現代地方演 アーティスト・イン・レジデンス 須崎」のサテライト事業として行う、地域で活動するクリエイターによる展覧会とワークショップ、須崎の特産品販売やまち歩きによる連続的な参加・体験プログラムです。

Artist in residence Kochi 2016

Spacetrip (スペーストリップ)
10月31日(月)～11月12日(土)

【会場】土佐市観光 Style (高知県土佐市新居 1945-8 2F)

制作期間: 10月31日(月)～11月12日(土)

【料金】無料

展示期間: 11月13日(日)～(終了時期未定)

【料金】一般 500円
※各種学生、土佐市在住の方は無料(要証明書)
【問合せ】090-1969-0827 (斎藤)

日本を代表する写真家 石元泰博氏の故郷である「土佐市」にフォーカスを当て、写真家を招聘し、写真を展示するギャラリーそのものを制作しつつ、写真を活用したWS などを行います。

※芸術祭チラシ兼ポスター作成時の内容となっております。

- 7 -

- 8 -

★ 実施報告 ★

※原則として、事業終了後に提出された実施報告書をもとにしています。

KOCHI TO BRASIL コウチ ト ブラジル

入場者数(演舞)：約100名 ワークショップ：約70名

事業の内容

カポエイラ・サンバ・ブラジル料理・楽器作りのワークショップ。カポエイラの演舞。ブラジルと高知の関係を示す写真展。

成果・反響

【カポエイラワークショップ】 参加人数 20名

主な参加者は小学校低学年～中学生でしたが、幼稚園、低学年、大人の参加もありました。参加者のうち、2名は途中退室になりました。理由を保護者に尋ねたところ、不明ということでした。知らない人達に囲まれたことが不安になったのかもしれない。

そのほかの参加者は楽しくできていたと思います。

【サンバワークショップ】 参加人数 19名

10代～50代の成人女性が主な参加でした。男性も一人参加。

初心者体験ということでしたが、皆レベルが高く、初心者以上の難易度になっていたと思います。

最後には、順番に皆の前で発表するほど仕上がっており、皆笑顔でできていました。

【料理教室】 参加人数 17名

サンバWSが押しすぎてしまい、早くから来られたお客様にはご迷惑をおかけしてしまいました。

準備も不十分で、今回のWSの中では一番の反省箇所になります。

内容としても、作った内容は珍しいものでしたが、手順としてはいまひとつだったかなと感じます。

【楽器作り】 参加人数 17名

主に幼稚園～小学校低学年の子供がメインで参加でしたが、大人も1名参加。

ワイワイと楽しく、皆無事に仕上げることができました。

最後には、カポエイラの歌も皆で歌いました。

【カポエイラ演舞】 観覧人数 約100名

始まり直前に大雨が降ったにしては、お客様が来て下さりました。

前半に純粋なカポエイラ演舞、後半は参加型の内容を織り交ぜ、最後にサンバ演奏とともにサンバを踊りました。お客様方も楽しんでいただけていたようで、イベントを知らずに来客した方も一緒に盛り上がることができました。雨の関係で、当初見込んでいた近隣の高齢者等は来客されませんでした。観覧してくれた高齢者の中には、途中で帰る予定をキャンセルしてまで、最後まで見てくれた方もいらっしゃいました。

【写真展】

写真は、現在ブラジル在住の方から直前にブラジルで行われた日本祭の様子を写した内容、以前に行われた高知祭の内容、そしてJICAよりお借りした日系ブラジル人の写真を展示いたしました。

ドラゴン広場の職員より様子をうかがっていたところ、来客された方は観覧してくれていたとのことです。

当日も、始まる前や合間の時間に観覧してくれている方がいました。

感想や、評価を図る仕掛けを作っていなかったのが、アンケートボックス等を設置したらよかったかなと思います。

【総論】

参加者全体として、子供から高齢者まで幅広く参加していただけた点は良かったと感じます。

悪天候の関係で、思ったよりも高齢者の参加がなかったことが悔やまれます。

参加者も、土佐市のみならず、香南市・南国市、高知市、そして須崎・四万十市まで幅広く来ていただきました。演舞を見た人の多くは、はじめてカポエイラというものを観覧した方が多かった様子で、中にはこういったイベントを地元でもやってほしいという意見を下さる方もおりました。(四万十市の方)

ゲストとして招いたサンバ演奏者たちも、ダンスと一緒に演奏したのは初めてだということで、すごく刺激を受けたとのこと。

イベント全体を通して、当初の高知とブラジルの関係性を気づかせる仕掛けを、写真展以外にもやればよかったと思います。(地元の人のブラジル体験談をフィールドワークしたり…)

また、ワークショップから演舞まで参加してくれた方も一部いらっしゃいましたが、どちらかだけ参加という方が多かったです。一日参加で楽しめるプログラムを検討する余地があると感じました。

事業を受けたことによってできたこと

【宣伝・広報】

チラシを大量に印刷することができ、土佐市全域への新聞折り込み配布することができた。

また、高知県下の多くの施設に設置することができ、それを見てご来場された方もいた。

【ゲスト招聘】

東京よりゲストを3名招くことで、高知にいながら質の高いパフォーマンスを演出することができた。

また、日本でも行える者が少ないサンバワークショップを行うことができた。

黒潮町からも、サンバ演奏者たちを招くことができ、ダンスと生演奏で魅せるということができた。

今後に向けて

今回、ブラジル文化の紹介という意味では、成功したと思われるが、高知とブラジルの関係を示すには弱い面があったと感じる。写真展に加えて、歴史の紹介などを織り交ぜた方が、面白かったのではないかと思う。また、宣伝方法についても新聞折り込みのみでは、若年層・中間層への宣伝ができていないと感じたため、今後は宣伝方法についても検討すべきであると感じる。

(助成額 33万円)



奏でるピアノで紡ぐきずな in 立川御殿

入場者数：57名

事業の内容

「歴史×音楽×地域の融合」をコンセプトとして、国の重要文化財にも指定されている、旧立川番所書院を舞台とし、プロのピアニスト宮本小葉実さんを迎えてピアノリサイタルを開催した。

リサイタルの冒頭には立川番所保存会から、立川番所書院の歴史的な位置づけや立川地区の歴史・現在の活動などの説明を行い、その後のリサイタルではクラシックを中心に馴染みのある曲を1時間ほど演奏した。

成果・反響

「とても贅沢な時間を過ごすことが出来ました。」や「とても良かったです。」「すばらしい演奏でした。」などというコメントを帰り際などに頂くことができた。

助成を受けたことによってできたこと

●広報面に関しては、芸術祭の助成事業ということでホームページやKAPのチラシ・冊子に掲載してもらうことで、大豊町内だけでなく県下全体にイベントの広報をすることが出来た。

●費用面に関しては、全ての観客席からステージを見ることが出来る、栈敷席を設定することが可能となった。

今後に向けて

今後も継続して番所を活用したコンサートを開催していきたいと考えている。また、H 29 年度、H 30 年度には県下で志国幕末維新博が予定されているため、これとも連動させていきたいと考えている。

(助成額 16 万円)



Animator in Paradise - あにめのいろは -

入場者数：200 名

事業の内容

デンマークのアニメーション学校 The Animation Workshop (TAW) より講師を 3 名、また東京よりアニメーター 1 名を招き、大月町立大月小学校 5 年生の総合的な学習の時間を活用して、地域学習の振り返りをアニメーションにまとめました。また、一般向けアニメーション体験ワークショップも開催しました。10 月 30 日に高知市内で TAW から来日した講師のアニメーションの紹介、12 月 10 日には大月町で TAW から来日した講師のアニメーションの紹介と小学生が制作したアニメーションの発表を兼ねた上映会を開催しました。

成果・反響

－アンケート結果－

Q 1. また、このようなアニメーションを見たいと思いますか？

A. はい 35 / いいえ 1 / 無回答 1

Q 2. 自分もアニメーションづくりを体験してみたいと思いましたか。

A. はい 22 / いいえ 15

- 本日は誘われて拝見したのですが、思いがけず感動的でした。素晴らしい取り組みだと思しますので続けていただきたいです。

- アニメの聖地にしたらい

大月小学校の先生方より

- 計画や運営体制を整えてほしい。
- 子どもたち教員にとっても新しい表現への気づきにもなりました。
- キャリア教育にも繋げられるのではないかという可能性を感じます。

これからの活動予定

大月：4 月末より 2 学期まで大月小 5 年生と授業の中でアニメーション作り。

デンマーク(9/25-10/1)：アニメーション・フェスティバルの教育部門でこの取組を発表、8 月末より約 3 ヶ月滞在の予定です。

助成を受けたことによってできたこと

デンマークのアニメーション学校 The Animation Workshop から講師を 3 名、東京からアニメーター 1 名を招き、大月小学校 5 年生の総合的な学習の時間を利用して、児童が地域で学習した「大月の宝物」をアニメーションで表現することができました。

制作したアニメーションは大月町内のホールで町民 120 名を集めて上映したほか、今後メイキング映像とあわせ

て小学校の学習発表会や高知県内の環境系イベント等で上映されることになっています。

また、道の駅や町内のイベントなどで一般を対象にしたアニメーションづくりのワークショップを開催し、すさきまちかどギャラリーや Artist in Residence に取組む方々と繋がるきっかけになりました。これにより次年度以降の活動のひろがりが見えてきました。

今後に向けて

大月小学校と協力して、授業でのアニメーションによる地域の宝物の表現を継続する。

小学校の放課後教室を利用して、アニメーションに興味を持った他の児童にもアニメーションづくりを体験してもらう。

海ゴミを活用したアニメーションの制作（デンマークで企画）。

すさきまちかどギャラリーで出張アニメーションワークショップを開催する。

アニメーションからゲームへの展開を模索する。

(助成額 30 万円)



『お國と五平』 上演プロジェクト in 八畝

入場者数：76 名（一般 33 名・視察 4 名・地元 27 名・ボランティア大学生 12 名）

事業の内容

中山間地域に位置する大豊町八畝で、地域の食を味わうことや農業体験も併せて、舞台芸術の上演を行う。劇場以外での舞台芸術活動を通じて、創造農村やグリーン・ツーリズムへの実現につなげると共に、限界集落である八畝地区でのコミュニケーションの促進や交流人口の増加に貢献することをねらいとする。

成果・反響(SNSより抜粋)

- 「此の夕ぐれに」と言う時間帯とちょうど重なる夕刻から次第に闇の迫ってくる時間帯の野外公演は、その暗がりや深まるにつれ確実に観客を魅了し、なかなか観応えのあるものだった。
- (様々なコンディションの) マイナス要素に負けない俳優陣の集中力と熱量、そして舞台越しに見える暮れていく山間の景色。舞台美術、照明。はじめて演劇を見る方も多くいたと思うが、客席が舞台に引き込まれていく感じが十分。終演後、隣に座っていた地元のおばあさんが「いやあ、引き込まれたねえ」って何度も言っていたのが非常に印象的。また、こんな作品をここに届けていけたら、もっともっと素晴らしいんじゃないか。
- サイコーのロケーション！

助成を受けたことによってできたこと

- 八畝地区の人口 33 世帯 77 人のうち 27 人の地元の方を無料招待することができた。
- 当初不可能かと思われたステージを棚田に組み上げることができ、観劇環境を整えることができた。
- 「利賀演劇人コンクール 2016」でともに活動した東京在住の出演者や徳島在住のスタッフの旅費や謝金を捻出することができ、八畝で再び一緒に作業することができた。
- 高知市内から向かう自分たちの旅費も確保することができた。

今後に向けて

八畝との関わりは、高知大学農学部及び地域協働学部の先生方や学生の皆さんと協働し、今後も継続していく予定。

今回は「グリーンツーリズム」や「創造農村」に向けての試行的な取り組みで、アート部門は舞台芸術の上演のみになったが、棚田をアート会場とすることで景観の魅力が増すことも実感できたため、今後は会期の延長等も検討し、音楽や造形美術なども取り入れたプロジェクトに発展させたいと考えている。

(助成額 50 万円)



高知演劇ネットワーク演会プレゼンツ 演劇実験空間 蛸蔵ラボ vol.3

入場者数：164名 その他：参加団体 32名・技術ワークショップ 22名・演劇ワークショップ 25名

事業の内容

- 公募により県内外の劇団やユニットが集まり、交流とスキルアップ、演劇の可能性を追求し演劇（若しくは演劇をテーマにした）作品をつくり、発表する。
- 舞台技術ワークショップを開き、音響・照明・装置などの知識、技術を習得する。
- 第一線で活躍する劇団（今回は子供鉦人）を招き、作品に触れたり、演劇ワークショップを開く。

成果・反響

- 日ごろ触れられない、いろいろなジャンルの作品を一度に見ることができて良かった。
- 大阪から劇団子供鉦人を観劇に来たが、四国にもこんなに劇団があることを知って驚いた。
- マジック、ダンスなど、演劇とはちがうものとのコラボレーションが実験的だった。

《技術ワークショップを受けて》

- 今回は基本的なことを実践を交えて多く学べたので、自分の劇団でもこの知識を広めていきたい。

《公募型作品制作に関わって》

- 演劇の基礎を分かりやすく、楽しく学べて良かった。

《大交流会・演劇おきゃくに参加して》

- 演者だけでなく、評論家、演出、舞台スタッフ、お客さん、いろいろな方と一度に交流できる素敵な場。

助成を受けたことによってできたこと

- 公演に必要な、照明・音響機材、舞台装置（平台など）を最低限揃え、さまざまな舞台効果をつけられるようになり、作品のクオリティを上げることができた。また、その機材などを使った舞台技術ワークショップを開くことができ、次回の活動へとつながった。
- 中央で活躍する劇団子供鉦人を招聘することができ、演劇ワークショップでは 25 名の方に参加してもらうことができ、さまざまな演劇的知識を深めることができた。公演は地元参加枠を含めて 90 名を超える観客に、見てもらうことができた。
- 蛸蔵ラボ主催の学生公募型演劇制作を企画することができた。それぞれ、高知大学、高知県立大学の大学生が積極的に参加してくれ、作品づくりを通して演劇への見識、意欲が高まった。

今後に向けて

- 蛸蔵ラボの取り組みを続け、自分たちで企画して公演を打つのが難しい方々への参加への呼びかけを行い、演

劇という文化を通して人と場所を育て、地域の活性化を図っていく。

- 蛸蔵ラボを経験し、自劇団の活動を深めたり、立ち上げるためのサポートをしていく。
- 照明・音響・大道具など、舞台技術ワークショップの内容を少しずつ、専門的なものへと発展させてしていく。

(助成額 50 万円)



AからZ(アートゾーン)で考える ワクワク減災力～段ボールハウスキャンプ&防災クイズ

参加者数：市内小学生 20名 発表会見学者数：保護者・一般市民・視察委員・取材 39名

事業の内容

地域のホールで拠点活動をしているシアターTACOGURAが、地域の課題である「防災」とアートをどう結びつけることができるか模索した企画。子どもたちとホールで段ボールハウスキャンプを実施。キャンプではグループに分かれ、防災に関する学習を深め、寸劇を練習。翌朝、発表会をする。他プログラム。サバイバル食、手作りランタン、防災ゲームなど。

成果・反響

- 「社会的」関心が高い分野だった。申込みが多く、何人もお断わりをした。
- 「子どもたち」プログラムが多かったが、子どもたちは1泊2日を終始生き活きとすごし学びを深めた。創作・協力・話し合い・練習、時折のトラブルなども良い経験となったようで、お迎えの保護者にほこらしげだった。
- 「地域」防災活動をしている方たちが、事前学習や当日プログラムに参加協力があつた。子ども・若い世代と地域組織のハブとなれた。
- 「学術」大学の協力や県外講師招聘など科学的な学びが表現活動の芯を支えた。
- 「劇団と子ども」子どもたちとの活動を体験することで幅が広がった。自由な発想や豊かさや、創作意欲。集団で表現活動にとりくみをサポートすることで、アートの持つ力を再認識できた。
- 「アートゾーン」ミュージアムとの連携が深まり、アートゾーンとして地域に芸術貢献の手応えを感じた。

助成を受けたことによってできたこと

大きく2点。まず、防災キャンプの企画そのもの。子どもたちからの参加費だけでは経費はまかなえなかった。保険、防災力、段ボールの処理費、会場代。防災食なども学習を目的としているので多量用意する必要があった。次代の子どもへの学びには、一定の投資は必要だと思われる。

2点目は、主催者の学び。「地域課題（防災）」がテーマであり、主催者であるわれわれのしっかりした学びがベースになくはない。今回、県外の先進的な取り組みの講師招聘は、KAPの助成がなかったら実現できていなかった。大学の研究室との連携が継続的に行われ、講師招聘の事前学習の段階から、地域の組織へも呼びかけ関係が深まったのは助成金があったおかげである。

今後に向けて

- この企画の後、大槻研究室・薬工ミュージアム・シアターTACOGURA主催で「防災ママカフェ」を招致し、地域の防災組織・段ボールハウス参加家庭にも呼びかけた。今後も連携を深め、おもしろい企画を展開できると考える。
- 夏祭りの取り組みなどもあわせ、今年1年で、地域でのホールや劇団、アートゾーンの存在感が高まったと感じている。

- 次年度もこの企画の継続を決めている。劇団としては「防災寸劇プログラム」をブラッシュアップしたい。

(助成額 43 万円)



AからZ (アートゾーン) で考える 高知の森林鉄道∞

入場者数：約 800 名

事業の内容

魚梁瀬森林鉄道をはじめとする高知県内の森林鉄道遺産を、美術館という空間で紹介し、あわせてアートイベント等関連企画を実施した。

成果・反響

入場者数 800 人超は、当初の期待を上回るものであり、森林鉄道遺産の魅力を、これまで関心のなかった層にアピールするという企画の意図は、十分達成されたと考えている。また主催団体である中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会メンバーは、今回の企画を通して、これまでの範囲を超えた活動に携わることができ、保存会の今後の発展にとって大きな財産になった。とくに、模型制作、映像制作などでは、県内のさまざまな施設やアーティスト、技術者と協働することができた。

新聞記事やテレビ番組にも取り上げられたことで、森林鉄道遺産の認知度も上がった。

助成を受けたことによってできたこと

展覧会が目標入場者数を上回ることができたのは、ガソリン車の実物展示によるところが大きいと思われる。また、会場の高知市だけではなく、中芸地区でも関連イベントとして支線探索ツアー、隧道ライブを開催できたことは、大きな意味があったと考えている。また展示室内においては、手作りの地形模型、土木写真家による森林鉄道遺構の写真が、重要な構成要素となっていた。以上はいずれも、助成を受けることによって実現することができた。

今後に向けて

展覧会を通して新たにできたネットワークを活用して、会員の高齢化等、保存会が抱える課題の解決をはかり、森林鉄道遺構の観光活用と次世代への継承を確実なものとしていきたい。

(助成額 45 万円)



SUSAKI (art) ASSEMBLE

入場者数：1380 名

事業の内容

アーティストインレジデンス事業と同時に開催する複合的な展覧会。地域で活動する作家による展覧会やワークショップを行い、連続的な鑑賞、参加、体験の機会を作る。

公共空間や市街地に点在する空き店舗等が展示会場となる。アートが地域に出て行き関係性をもつことで新たな価値観、発想が生まれる土壌づくりを目指す。

成果・反響

お客様の声 (一部抜粋)

- 解説がないとわからない。
- 浜の会場が良い。気に入ったのでその場でお弁当を食べた。
- 色々な会場を回れて楽しかった。
- 須崎のことを知る機会になった。

成果

- 参加作家の年代の層が多様だった。
- 実行委員のそれぞれの特性を活かした企画・準備を行うことができた。既存のスタッフのみで行われていたことが、地域住民である実行委員が、各々で考えて動くことができた。
- 展示会場に浜を設けたことで、商店街から海へと続くルートができた。まちかどギャラリー周辺だけでなく、地域資源である海や、市場通りへの誘導ができた。
浜の作品には、定期的に見に来る人がいたようで、作品の近くに花を飾ったり、石に書いたメッセージを残す人も現れた。作家と直接の対話ではなく、作品を通しての関係性ができつつある様が見られた。

助成を受けたことによってできたこと

参加作家への謝金、展示会場の賃借、ドキュメントブックの作成

今後に向けて

作家、お客さまとともに多様になり、よい展覧会であった。主催者側の役割分担をもっと具体的に行うことで、更に深め、広めることができたとも思う。

実行委員会の定期勉強会を重ね、須崎らしい「アートが地域に出ていき、関係性を持つことで新たな価値観・発想が生まれる土壌づくりを目指す」展覧会、プロジェクトを考え実行していく。

(助成額 47 万円)



Artist in residence Kochi 2016

入場者数：写真展 167 名（内土佐市在住 81 名） その他：交流会 13 名・ワークショップ 18 名

事業の内容

写真家 伊東和則氏を招聘し、高知県土佐市に2週間滞在しながら撮影・交流・ギャラリー（写真展会場）制作・写真展を行うアートプロジェクト。滞在初日には高知の文化芸術関係者、アーティスト、土佐市関係者（地元住民、土佐市観光 Style 職員、地域おこし協力隊）などを交えた交流会を行い、土佐市の山の手保育園ではインスタントカメラ「写ルンです」を活用した写真 WS を行い、11月14日（月）からは滞在中に撮影した土佐市の様々な写真を展示する写真展を開催した。

成果・反響

- 土佐市を撮って頂きありがとうございます。ここで生まれ、育った私ですが、それでも知らない所を切り取ってくださる…。写真が本当に「生きて」見えてるような。来てよかった。ありがとうございます。
- とてもすてきな空間です。何気ない風景も撮り方ひとつでこんなにもすてきによみがえっていて感動しました。また来たいです。ありがとうございます。
- 私はこの写真てんを見てとてもうつくしい写真と思いました。（新居小学校3年）
- 土佐市にはこの様なイベントが大変少ないのでこれからも続けて欲しいです。一昔前の写真があれば面白いと思います。

助成を受けたことによってできたこと

今回の助成によって「Artist in residence Kochi 2016」そのものが実施できた。また写真 WS では園児1名に1つの「写ルンです」を渡し、各自で撮影した写真を現像し、アルバムに入れてフィルムと一緒に渡すことができた。さらに2週間の滞在をしながら、土佐市観光 Style の空間をギャラリーにしつらえ、1ヶ月強の写真展を実施する事ができた。これら全て、今回の助成がなければ実現しなかった事だと言える。

今後に向けて

土佐市観光 Style の空間を魅力的なギャラリー（写真展会場）にし、様々な方に観に来て頂けた事もあり、「こんな場所が土佐市にあったがや」「すごく魅力的な空間でびっくりした」「ここで僕も何かイベントをしてみたい」という声を聞くことができた。今後は土佐市観光 Style を活用したアートイベントが行われ、土佐市でも多種多様なアートに触れる機会を増やしていければと思う。

(助成額 36 万円)



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2016」 事業報告会

開催日：平成 29 年 1 月 29 日（日）

会 場：高知県立歴史民俗資料館

参加者：34 名（報告者含む）

<プログラム>

1. ごあいさつ 高知県芸術祭執行委員長 新納朋代
芸術祭執行委員のご紹介
2. 助成事業報告（9 団体）
3. 意見交換

～議事抄録～

★ 各事業報告 ★

① KOCHI TO BRASIL コウチ ト ブラジル

9月15日から9月18日の3日間、開催場所、土佐市総合体育館、土佐市ドラゴン広場、土佐市をメインに開催させていただきました。

事業の目的としては、身体的、音楽的ベースの魅力伝えること、異文化コミュニケーション、ブラジルと土佐市のつながりを知ってもらう、そしてカポエイラを通じて幅広い世代の交流、土佐市を盛り上げようという目的で行いました。

具体的にどういった事業内容をしたかと言いますと、まずは、ドラゴン広場にて9月15日から3日間、ブラジルの日系移民の現在というテーマのもとで写真展を行いました。9月18日に、ブラジルサンバ、ブラジル料理、ブラジルの楽器を作るワークショップを行いました。

カポエイラは、ブラジルの国技の伝統芸能で、格闘技の要素、ダンスの要素をあわせた動きをします。楽器、歌、生演奏であって、その歴史も400年以上続いていると言われていたものです。格闘技のように戦いますが、勝敗はなくコミュニケーションが大事といった内容で、ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。生演奏があって、皆で輪をつくって中で演舞をする。技を繰り返す、コミュニケーションをとるのがその性格です。ユネスコに登録されているのは、こういうかたちのもので、中の動きだけとか楽器だけではなく、この全部をあわせたかたちが登録されている内容になります。

今回、我々がゲストとして招いたのが、森陽子氏、萩原 永和氏と、北林 優佳子氏です。森陽子氏は、女性カポエイラの中でも、日本を牽引している方で、エクササイズプログラムや、宝塚の振り付けなど、多方面で活躍されている方です。萩原氏もディズニーランド等でカポエイラを長年紹介されており、日本でも実力のある2名の方と、補佐的な感じにはなりますが、もう1人ゲストで呼びました。

実施したワークショップは、カポエイラ、サンバ、料理教室、楽器作り、約それぞれ20名。当初の目標も20名だったので、目標に近い数字に、合計あわせて73名の参加がありました。最初に申し上げた目的にそって、その成果報告とさせていただきます。まず、身体的、音楽的、芸術の魅力伝える点においては、



日本でもトップレベルの、レベルの高いゲストを呼ぶことによって、ご来場いただいた皆さんにも、こんなパフォーマンスがあるんだというような魅力を伝えることができたと思います。

青少年の異文化コミュニケーション学習についても、当日はパフォーマンスを見せるだけでなく、ちょっと間をおいて、一緒にやってみませんか、こんなのですよと身体と一緒に動かしてもらってから、そういう要素を見せたという流れを作り、巻き込み型、参加できるんだよってというようなかたちをつくってみました。

ご来場いただいた中で、最初から最後までカポエイラの流れ、文化遺産としての流れというのを見る機会はそのようないと思います。それをしっかりやったことで、最初から最後まで、こういう流れが芸術としてあるんだということが見せられたんじゃないかと思っています。

ブラジルと土佐市のつながりを知ってもらう。メインの企画としては、写真展。今の土佐市と今のブラジルの日系社会の様子というのを少しでもお伝えできるようにと思ったんですけど、少し資料が弱かったかなと反省しております。カポエイラを通じた幅広い世代間の交流。子どもの参加もございました。途中の体験でも飛び入りがありました。一般的に無料でドラゴン広場でやった関係で、知らずに来て、そのまま楽しんでもらえたというようなパターンがありました。

土佐市を盛り上げるという目的については、ワークショップ自体が、地元住民、土佐市の参加者の割合が多かったこと、土佐市の外部からの参加の場合、南国市、四万十のほうからも来られた方がいました。別のイベントで宣伝も兼ねてパフォーマンスしてくれないかというようなこともあり、一緒にその企画、土佐市を盛り上げられたんじゃないかと思っています。補足ではありますが、当日のドラゴン広場のテナントさんからは、売上げがすごく上がったという感謝の言葉をいただきました。

反省点は、集客に苦戦したこと。ワークショップは、目標に近い73名、目標に近い数字はもらったんですが、集客に苦戦した面があります。また、アンケートを最後に実施した方が良かったなという反省点があります。土佐市の新聞全部にチラシを折り込みしたんですけども、問い合わせが、少なかったかなと。ちょうど1ヶ月前ぐらいに折り込んだんですけども、ちょっと早過ぎたかなと。それに対して、直前、当日に申し込みが多くあり、1ヶ月前にして、当日にまさかそんなにいっぱい来るとは思わなかったという部分があり、見通しが甘かったかなと思います。アンケートは、ドラゴン広場に残った方々と話をして意見を集められた部分があるんですが、もっと幅広く参加者の反応を知る機会をつくったほうが良かったかなと思っています。

□質疑応答

Q. 写真展の内容を教えてください。

A. JICAさんから写真をいただいたのと、ブラジル在住の知り合いに、ちょうどジャパンフェスタ、日本祭等々開催していたので、その様子を写真でいただきました。JICAさんの写真は、きれいな写真だったのですが、依頼して撮ってもらった写真が少し弱かったかなと。いっぱい撮ってはくれていたのですが、メッセージ性が弱い内容になっていました。

□感想

・県立美術館でブラジルの写真展がやっていました。そこでチラシを置いてもらう等の告知をする。もしくはテレビ番組を録画する。テレビの録画というのは、自分が個人で撮ったものを、営利を目的としない範囲であれば見せてもかまわない場合が結構多いです。許可は取らないといけません、そういったもので、ちょっと深みのある内容というのができたのではないかなというふうに少し思いました。

②奏でるピアノで紡ぐきずなin立川御殿

今回、ステージとなった旧立川番所書院は、国の重要文化財に指定されている貴重な文化財であり、このような財が地元でありながらうまく活用しきれていないという地元立川地区からの声きっかけで、このよ



うなコンサートの企画に至りました。番所は昔からの造りで、音響面も良いので、音楽コンサートをしようということになり、音楽家の市川みどり先生の助言もあって、野外のピアノコンサートを開催することになりました。

コンサートは平成28年9月17日に開催しました。番所をライトアップさせて幻想的な雰囲気を出し、その中でコンサートを行うということで、時間も夕方6時からの開催となりました。また、立川番所をより多くの人に知ってもらいたいという思い

から、当日は番所の内部を開放したことで番所についての説明も行なうようにしました。

良かった点についてです。企画準備段階で良かった点ですが、プロの音楽家である市川みどり先生に企画準備段階から関わってもらうことで、色々と助言をいただくことができたということです。市川先生は、お父さまの地元が大豊町で、本人も立川番所のすぐ近くに別邸を構えるなど大豊町に所縁のある方です。市川先生自身は埼玉県の所沢に拠点を置いております。そこで実施した野外コンサートでの情報提供や、ピアニストの紹介などもしていただきました。特に、誰を呼ぶかについては、私達のような経験値の少ない者だけでは、頭を悩ませるところであったので、ここは比較的スムーズに事を進めることができました。

次に、実施当日、良かった点についてです。ひとつ目は、番所の中を見てもらうことができたということです。立川番所は、平日は外観しか見ることができず、日曜日と祝日のみしか開館していません。当日は番所を全て開放していた為、中にある展示物や、番所の昔ながらの造りを見てもらうことができました。ふたつ目は、番所の外と中の2ヶ所で音楽を楽しんでもらうことができたということです。これは、偶然起きたことなんです、コンサートを開催した日が台風の接近で、朝から雨が降ったり止んだりという天気でした。開演時には雨が止んでいたので屋外の栈敷席で聴いてもらっていたんですが、開演後30分くらいしてから雨が強く降り始めた為、急遽お客さんに番所の中に入ってもらい、コンサートを続行することになりました。外では、ライトアップされた番所をバックに演奏する姿、中に入ることで、番所内からの音の響きを楽しんでもらうこともでき、偶然ではありますが、お客さんにとっては二度おいしいコンサートになったのではないかと考えています。

最後に、実施体制についてです。立川地区の区長協議会や地域住民、町役場からのサポートがかなりありました。大豊町は町の高齢化率が50%を越えていまして、中でも立川地区は、高齢化率が70%を超えた限界集落になっています。立川番所保存会のメンバーも高齢化が進んでいる中で、事前の草刈りといった準備や当日の会場の設営、受付業務などには、立川地区の区長協議会をはじめとした多くの地区の住民の方や、大豊町役場の観光交流担当の職員の方、地域おこし協力隊の方など、たくさんの人的支援をもらったことが良かったことと思います。

苦労した点と反省点についてです。企画準備段階についてですが、この段階での反省点は、雨対策です。雨の多い時期に日程を決定してしまったので、当日、雨が降った場合の対応や、催行決定をどうするかなど、企画段階からもっと考えておくべきだったと反省しています。ブルーシートや照明器具へのカバーなども、コンサート実施日の数日前から雨対策を考えておかないといけないということで準備をしてしまったので、もう少し余裕をもって予め準備しておくべきだったと思っています。

次に、開催当日の反省点についてです。まず、ひとつは開場時間が遅れてしまったことです。開場時間に雨が降っていたために、お客様を待たせるようなかたちになってしまいました。屋外でやりたいということにこだわったのですが、今考えると、この段階で思い切って屋内での開催にしても良かったのかもしれないと思っています。ふたつ目が、雨が降ったことへの対応の遅れです。コンサート開始後、20分くらい経った時に雨が降り始めて、曲の途中で雨がかなり強くなってしまい、小雨のうちのお客さんを移動させるなど

といった判断をしておくべきだったと感じました。帰ってしまうお客さんも何組かあったので、もう少し早めに中に入れるべきだったかなと思っています。

最後に、実施体制についてですが、まず、運営側の情報共有の体制に反省点がありました。特に、雨が降った時の対応状況が、企画準備の段階から運営に関わる者、皆で共有しておくべきだったと思っています。そして、録音や写真撮影といった記録体制についても不備がありました。

今後の展望としましては、このイベントは、地域の文化財をもっと活用しようという思いから始まったものなので、今後も継続的に立川番所を活用できるようなイベントを企画して行っていきたいと思っています。今回はピアニストを呼びましたが、次回はまた楽器を変えたりしながら続けていきたいと思っています。

また、平成 29 年、30 年と、高知県全域で幕末維新博というものが開催されます。この博覧会でスポットがあてられている江戸時代と立川番所が実際に使われていた時代がちょうど重なることから、何かしら連動させるような内容のイベントをできたらなと思っています。

□質疑応答

Q. 来場者の方は集落の方が中心だったのでしょうか。どういったお客様が来られたのでしょうか。

A. 集落の方もいらっしゃっていましたが、他の嶺北の土佐町や本山町のほうからもいらっしゃっている方がいました。ただ、高知市内とか南国市とかはあまりいなかったのかなと。やはり、地元、大豊町内、嶺北というのが来場者の範囲だったかなというふうに感じています。

□感想

・アンケートをとらなかったとの事ですが、今後続けていくにおいては、その方達がどこから来て、何を求めて、何を感じて帰られたか。自分達が知りたいことと次につなげたいこと、今後フィードバックしないと、数だけを数えるという癖はつけないほうがいいと思います。

③ Animator in Paradise –あにめのいろは–

企画の段階で大月小学校校長をはじめ先生方の舞台を支援していただき、8 月には 5 年生の総合的な学習の時間でのアニメーションづくりが決まりました。役場のまちづくり推進課と町長、教育委員会の協力のおかげで、各施設を無償で提供いただけるようになりました。

続いて、準備期間です。夏休みの登校日に学校へ行き、先生方と、私と大月町地域支援活動協議会で打ち合わせをしてきました。デンマークから紹介されたアニメーターのドリファさんは 9 月 6 日に到着されて、学校の希望などを聞き取る協議を進めながらアニメーションの題材を「大月の宝物」にすることが決まりました。最初の授業が予定より 1 ヶ月早い 9 月 13 日に決まってしまう、準備に追われる毎日でした。この頃にクラウドファンディングのページの立ち上げも行っていました。

クラウドファンディングとブログの実績を報告します。9 月 9 日から 11 月 29 までの 82 日間行い、目標額 28 万円の 89%となる 22 万 1896 円達成しました。内訳は日本語のサイトで 17 万 8000 円、英語のサイトで 400 ドルでした。今回、ご覧いただいてわかるように、MotionGallery さんのサイト協力が非常に大きかったです。ページの訪問者は、東京、高知、茨木、大阪の 20 代後半から 40 代の方でした。実際にアニメーターとの交流も希望されて、茨木から大月に来たいという連絡があったり、返礼品の DVD や大月の野菜なども喜んでいただきました。

実施期間中、ブログの総訪問数は 1022 件で、ホームページも立ち上げましたが、そちらは 2388 件訪問がありました。クラウドファンディングの支援もブログからきていて、フェイスブックのように会員でなくても見られる情報を発信するべきだなと感じました。なかなか継続して更新ができていないので、更新の頻度

を上げていきたいと思います。

4 名の作家が約 3 ヶ月以上にわたって大月町に滞在しました。

ドリファさんは、3 D アニメの技術者で、日本語が話せたので、子ども達は積極的に話しかけていました。申請時に予定していた一般向けワークショップの企画運営にもできる限り挑戦しました。ワークショップ単独の開催は告知が間に合わず集客がとても難しかったです。彼女からバトンタッチしたのが、インマさん、リンダさんです。リンダさんは、2 D アニメーション科の 3 年生で日本のアニメーションが大好きな方です。インマさんは、子どもにアニメーションを教える専門家で短編アニメーション作家でした。彼女と作品の構想を練って、英語版の「大月の宝物」の編集を現在、行っています。2 人は、蛸蔵で行った上映会の準備も手伝ってくれました。東京からアニメーター作家さんがいらっしゃって、日本語版「大月の宝物」の編集と、広報も手伝っていただきました。彼女は普段、アニメーションやゲームの制作をしているので、実際に子ども達が彼女のゲームで遊ぶ姿を見られて、とても嬉しそうでした。「大月の宝物」は上映会のあと YouTube で公開しました。

アニメーター達の滞在中は、伝統文化、それから普段の暮らし、地域の農業、産業、学校の行事など、そのほんの一部をできるだけ体験いただけるようにしました。皆さん、興味も個性的で楽しく、すごく表情豊かで地域の方の温かい心とおいしい食事に感動し楽しく交流していました。お互いにたくさんの発見があり地域を見直すきっかけにもなりました。長い期間の事業だったので、行き詰まることもありましたが、そんな時に KAP 採択事業者の方々に相談でき、助言いただけたことがすごく励みになりました。授業は生徒 42 名、10 班に対して、毎回 5、6 名の対応で制作にばらつきが出てしまいました。とにかく人員を確保するのが難しかったです。また、その都度、状況整理して資料を作っていたので、全員が進捗や目標を確認できるように改善していきたいなと思っています。

そのほか気付いたことです。改めて、アニメやマンガが日本の文化を広げていると気付きました。インマさんはアニメーションの教材や資料もたくさん用意してくれました。教わったアニメーションの原理や物語をかたちにする方法は、アニメのいろはそのものでした。彼女は、初めて過ごした日本での体験とアニメーション制作について、アメリカで行われた国際会議で発表してくださいました。また、町内で 10 月の中頃に、在型のアートプロジェクト ビジューライズ展があり、これから何か協同できればいいなと思いました。

最後に、「才能とリテラシーを早くから育み、そして、それが国際交流を担うというのは、今、本当に重要なことだと思います」というのは、先日、MotionGallery 代表の大高さんからいただいた言葉です。リテラシーとは、読み取り、アウトプットする力。アウトプットは、偶然にも大月小学校の今年のテーマでした。来年度はタブレットなど身近なものでアニメ作りを続けたいと思います。アプリで制作しながら、デンマークと協同でアプリやゲーム開発もしていけたらいいなと考えています。今は、インマさんからいただいた教材をもとに、大月小学校に提出する来年度の授業計画を用意しています。

□質疑応答

Q. インマさんが、国際会議で発表されて教材を送ってもらって来年度の事業計画を小学校に提出しますということだったと思いますが、具体的に小学校や、放課後教室等で来年度、授業をやったり、ワークショップをやったりというのは、具体的に決まっているということでしょうか。また、大月町以外の市町村で、今後こういったプロジェクトをやっていく可能性はどうでしょうか。

A. 今年度行ったことについて、大月小学校の校長先生も担任の先生も非常に喜んでくださり、色々反省点はありますが、来年度も授業の中でできないかといって、簡単な凡例計画のようなものを今見てもらっているような状況です。放課後教室になるか授業の中になるかはわかりませんが、どちらかになるように準備をしています。

大月町以外の活動も是非していきたいと思っていて、今回は、須崎の、プロジェクトでもワークショップをできないかというお話されていたので、大月町以外でも活動をして、大月町に来てもらえるようにつなげていきたいと思えます。

□感想

・広報の仕方についてアドバイスです。県内にはテレビ局3社と新聞社があります。新聞社は取材が入ったとの事でしたが、テレビ局にも、各社報道部というところがあります。ここはニュースを取材しているところですが、報道部もしくは制作部のほうに取材依頼と書いたものを、形式は自由で結構ですので、どういう目的で、いつ、どういうふうな人が参加してやるのかということ、ファックスでや電話で一報を入れていただきますと、取材依頼が主催者から来ていると、現場に来ているということでカメラが出しやすくなるというシステムになっていますので、また何かアクションを起こされる時にはご参考にしてください。

④『お國と五平』上演プロジェクト in 八畝

これは演劇なので、先に、芝居のほうの座組があります。今年も夏に富山県の利賀村で、利賀演劇人コンクール2016という演劇コンクールがありまして、それに課題戯曲のひとつである、『お國と五平』という谷崎潤一郎の作品を、藤岡武洋演出、出演以下3人で取り組んだものです。座組はこの時は6名で、全部で全国から30団体、応募があり、実際の上演にこぎつけられた団体が8つです。そのうち、3位にあたる奨励賞をいただいた作品でした。県内でも、どこかでちゃんとやってみようという思いがあり、やはり野外でやろうということで、この大豊町の八畝はどうかと考えたものです。

大豊町の八畝というのは地理的にいうと、ほぼ徳島県、梶ヶ森のすぐ下にあたります。33世帯77名の非常に小さな集落です。ここは写真家の方などが棚田風景の撮影に訪れるエリアとして知られているわけですが、いわゆる限界集落ですから、2011年から高知大学の農学部や地域協働学部の学生さん達と、それと地元の人達で大豊シャクヤクの会というのを立ち上げました。梶ヶ森のヤマシャクヤクにちなんで、シャクヤクの花を秋から春にかけて八畝で栽培しております。春から秋にかけてはどうするかというと、遺伝子保存を兼ねて、地キビ、いわゆる硬粒種のトウモロコシ・フリントコーンを栽培しています。昔はそれを粉にして、「はったい粉」にして食べるというのがありましたが、今はそういうものを食べないので、地キビを焼酎にして現金収入に換える活動を行っております。2015年には、環境省のグッドライフアワードの環境大臣賞を受賞し、先日は、住友生命のヤングジャパンアクションの大賞を受賞しました。

今回の狙いとしては、舞台芸術と食農体験による「創造農村」の試行等、ともかくこれを全部やってみよう。利賀村も限界集落なので、高知の利賀村にしてみよう、あるいは大地の芸術祭がライバルなど、大きいことを言いながら、色んなことを考えました。9月22日、24日にはドラマリーディングのワークショップを行いました。また、一番メインとなるのが、25日に高知駅からバスを出し、高知市から招いたお客さん達への昼食会。そして、収穫体験や集落を歩くミニツアー、『お國と五平』の上演です。ワークショップは、人数があまり集まりませんでした。どういう作品を上演するのか地元の皆さんにわかって貰おう、またどういう言葉にすると面白い感じが出てくるのかを味わって貰おうということをねらいにやりました。今思うと高知市内でのワークショップもあってもよかったのかなと思ったりもしています。

私達も台風に悩まされました。台風が去った後だったのですが、ずっと雨は残っておりまして、前日からの仕込みや音響機材も、バタバタ仕込むようなことになり苦戦しました。

企画から準備については、大豊シャクヤクの会の皆さんと色んな信頼関係を作りながらできたことが非常に良かったと思えました。ただ、この9月にやると天候に左右されやすい。だけど、雨が降っても、とにかく雨ガッパを、簡易のレインコートを配ってでもやろうというような無謀なことも考えた計画だったので、頑張りましたが、思った以上にぬかるんだ棚田にステージを組むということが困難でした。また当日は、と

もかく学生の皆さんのエネルギーがものすごく、本当に学生の皆さんに助けてもらったことが一番大きかったように思っております。

企画から準備についての反省点としては、学生の皆さんとほとんど事前に話が出来ていなかったのも、学生の皆さんにお手伝いさせてしまったなど。もっと学生の皆さんが主体的に動けるような体制を整えておけばよかったなと思ったことでした。

実施体制としては、地元で頑張っている大豊シャクヤクの会の皆さんと協働するプロジェクトになり、大豊町も協力してくれたというのも大きかったです。ただ、私達自身が全部で4人のスタッフだったので、非常に仕事が複数にわたり、もっとスタッフの確保が必要だったなと思っております。

また、学生の皆さんが考えるプロジェクトもあった方がよかったなと思えます。そして、もっと八畝の皆さんが表に出て来る場面も必要だったのかなと思っております。これまでこういうイベントは八畝にはなかったのも、ともかくやって良かったです。地元のお年寄り達が来年もやりたいと言ってくれているので、是非頑張ってみたいと思っております。今回、食、農業、歴史、アートというのは、相性がいいなというふうにも実感をもてました。会場は、山なので、駐車場のスペースを確保し難かったです。駐車スペースも考えなきゃいけないと思った次第です。

□質疑応答

Q. 高知大学農学部と地域協働学部の連携があって、色んな可能性も秘めていると思いますが、今後どういったことを来年度以降進めようと思っておりますか。

A. 学生の皆さんには色んな力、スキルもあるので、学生の皆さんが考えるプログラムを今後、考えていけたらなと思っております。学生たちのパワーをもっとうまくアートプロジェクトに活用させていくことを考えていきます。

□感想

・学生さんも、単に手伝ったとかという気持ちよりも、通常の研究授業と違う刺激を今度の演劇プロジェクトで受けているはずなので、そこらへんのフィードバックなどを、うまく加味しながら次の企画を考えてもらえたらと思います。

⑤高知演劇ネットワーク演会プレゼンツ演劇実験空間蛸蔵ラボvol.3

蛸蔵ラボの趣旨は、公募により県内外の劇団やユニットが集まり、交流とスキルアップ、演劇の可能性を追求し演劇作品を作り、発表する。そして、舞台技術ワークショップを開き、音響、照明、装置などの知識、技術を習得する。もうひとつが、第一線で活躍する劇団を招聘する。今回は、「子供鉦人」さんという劇団、東京で活躍されている子供鉦人さんを招聘しての公演を行っております。

今回の参加人数は、入場者が164名。こちらが80人定員で2回、2日行っておりますので、ほぼ満席となりました。また、参加団体が今回、10団体。延べ32人の参加をいただいています。それとプラスして、事前に行っております技術ワークショップが、22名。そして、演劇ワークショップとして子供鉦人さん、東京で活躍されています子供鉦人さんに講師になっていただいていた演劇ワークショップのほうにも25名。こちらは大阪から遥々おいでくださった方もい



らっしゃいます。たくさんの方においでいただいて盛会なイベントになったことと思います。

少し作品を紹介させていただきます。

①劇団「愛玩墓地」。こちらは明治大学で演劇をしております。もともと土佐市出身ですが、地元高知と芸術文化のつながりを持ち続けたいということで、蛸蔵ラボに参加したいというご連絡をいただき、今回参加となりました。一人芝居で、東京の方も一緒に連れての公演となりました。

②震災をテーマとした一人芝居をされた刈谷さんです。このラボをきっかけに、佐川高校での校内公演にこの作品を持って行くことになり、そちらでも大変好評をいただいたとお話をいただいています。

③四万十市在住の小竹さん。蛸蔵ラボ、3回目ですが、初めてダンス作品ということで、台詞のないダンスを通じた演劇へのアプローチということで、色々な演劇のかたちを見ることができるといえる蛸蔵ラボというものになっていたのではないかなと思います。

④ピンクホース縁劇団。初の四国外からの参加をいただきました、岡山県から来ていただいた団体さんです。まだ立ち上げたばかりということで、色々なところで交流をもって公演をしていきたいというお話をいただいています。

⑤愛媛でプロのマジシャンをしています、劇団コバヤシライタさん。マジックの観点から演劇に取り組んでみたいということで、参加をいただきました。

⑥高知大学演劇研究会さんと、OBの皆さんです。それぞれ自分達で作品を作り、照明、音響、自分達で、なかなかしていくことが難しいという中で、演会のサポートが入りながら自分達で公演をつくっていくことができるまでになってきました。

⑦大人になったらオルゴール。普段は自分達で公演をしているわけではなく劇団に所属している人達が、初めて自分達でひとつの作品を持ち込みたいということで、スキルアップを目的に参加をされています。

このような、色々な方達がそれぞれの目的によって参加をしているイベントになっています。

反省点としては、クオリティの確保ということの意味でも少し難しいところが段々出て来ているなというところ。ですが、やりたいという気持ちを刺激するイベントをこれからも続けていきたいと思っていますので、その中でスキルアップをしていくことができる、そのようなサポートができたかなと思っています。

今回の助成をいただいたの目玉の企画のひとつですが、学生対象一般公募型作品制作ということで、高知大学と女子大の4人の学生さんが進め、参加をしてくださいました。演技の基礎からはじまり、小屋入り、リハーサル、ゲネ、公演までの流れを実際に体験してもらいながら、色々なことを体験したことを、それぞれの学校、団体に持ち帰って今回の経験を活かしてもらえたらかなと思っています。大変、好評をいただいております。

次に、技術ワークショップです。音響のワークショップをしました。実際にスピーカーを自分達で積み込んで、どのように音が出て、どのような段階で音響効果が得られているのかということ、実際に身をもって体験してもらいました。仕込みも一緒にするというので、実際に自分達の使う舞台は、どのように作られているのかということが実際に体験することができたのではないかなと思っています。

また、「大おきゃく」には、たくさんの方が参加してくださりました。飲み食いしながら演劇をつくる、支える、色々な人達の交流の場をかまえています。この中で色々な交流ができ、新しい企画もどんどん立ち上がっていますので、こちらもお楽しみください。

反省点も色々ありますが、普段、演劇に関わることのない人達へのきっかけや人材の掘り起こしという意味では、まだまだ不十分なところが多くあります。引き続き、続けていくことが成果だと思っていますので、これから柔軟に対応していくということ、また、色々な団体の参加が増えていきますので、その団体に対するニーズにそって、演会がサポートをしていくながら、蛸蔵ラボでスキルアップをしていってもらえるかということアンケートをとりながらどんどん進めていけたらかなと思っています。

□質疑応答

Q. 参加された団体の方々の交通費等のお支払いはどんなふうに行われているんですか。

A. 招聘劇団に関しては交通費というかたちで、おいでいただいておりますが、そちらの金額も、十分ではありません。それ以外の団体さんに関しては、交通費というものは一切出していません。演劇は、どうしても作品制作にお金がかかります。舞台装置を作るにしても、衣装を買うにしても、新しい照明を、効果を出そうと思っても、音楽を流すだけでも著作権使用料、またCDを借りる、色々な面でお金がかかります。そういう意味で、作品制作補助費は、お出ししています。その分が交通費にあたるのか、それ以外のところにあたるのかは、それぞれの団体さんにお任せしています。

□感想

・観客のリピーター率はすごく高いと思うのですが、ラボの中で交流ということテーマにされているんだったら新しい観客の方が来るということが、もう少し広がっていくと、新たな人も来るのかなと思いました。

⑥AからZ(アートゾーン)で考える ワクワク減災力～段ボールハウスキャンプ&防災クイズ

演劇を絡めたプログラムをアートゾーンで考えるというシリーズの一環として企画をしました。

ホール蛸蔵は、川沿いで水没地域になっています。地区的に防災は無理なので減災しようということで、そういった取り組みでは先進地域です。頑張っている地域の方々がおいでます。でも新しく開発がどんどん進んでいますので、流入世帯や若い人達と地元民、頑張っている人達の意識の差が大きいです。そこを私達劇団や、ミュージアムさんが、「何とかしてくれん?」「こんなのしてくれん?」みたいなことを言われていたのですが、とは言え私達は劇団なので、なぜ私達がそれをしなくしてはいけないのかという自分達の中の落とし込みがうまくいかず、しばらくお話を伺っただけという時間がかかり流れていました。そういった中で、大槻教授という方が我々の公演に来ていただいたご縁で、「アート×減災」というコンセプトを持って、AからZで考える、アートゾーンで考える、というトークイベントを行っていただきました。その時に、知識というのは勉強できる。でも、本当に対策しているのかと行き詰まりを感じているというお話でした。人というのは知識ではなくて心で行動するもので、アートというのは心を動かすという力があるので、そういった地域課題、減災教養というか、行動に移さなくてはいけないものに有効ではないかという話をしてくれました。その時に、私達の中で、私達が持っている力自体が、地域課題に活かせる、私達にしかできないのかとも思い、じゃあ頑張ってみようという話になりました。

私達は、この地域のホールを拠点にしている劇団です。このトークイベントの少し前にあった、民衆の敵という公演の前日ぐらいに、熊本の地震が起きました。高知も揺れました。公演が明日から始まるという状態の中で、公演をどう判断で中止か否かを判断するんだ。実際に地震になったらどうやってお客さんを誘導するんだ。どこに避難場所があるんだ。その時に、拠点でやっていると言っているんだったら、私達の集団自体がもう地域住民じゃないかと。これは地域課題に向き合わざるを得ないだろうというふう思ったということも大きなきっかけになっています。

今回の助成事業です。10月の8、9日に、1時半から翌日の10時まで、蔵の中、ホールの中でキャンプをしよう。定員20名で小学校3年生から6年生まで。安全とかも含めて保障できるのか、どのへんが実際できるだろうとミュージアムさんや大学の研究室の人達と随分話をさせてもらいました。大きな柱としては、段ボールハウスを作る。これは避難所での抵抗感を軽減し、当たり前の素材を工夫してやっていくという経験。そして、何でもできるんだよという意味で、新聞紙で食器を作りながら、防災食をしよう。そして、私達、演劇集団ですので、防災に関して子ども達と寸劇を作るという経験、これを3つの柱にしています。ミュージアムさんや大学の研究室と連携することによって、しっかりとした学習や子ども達とお泊まりするという事に対して、知恵を出しながら乗り越えていけたかなというふうに考えます。また、この助成をいた

だくことによって、県外講師より先進事例を学ぶことができ、自信を持って取り組むことができました。事前学習会に地域の人達に来ていただいて、プラスアーツさんという方と学習を進めることができました。

実施当日は、プログラムが多かったです。その中で、大人はへとへとだったのですが、子ども達は、本当に最後まで生き生きと集中し、発表会までもっていったというふうに考えています。子どもたちの小さなトラブルが実際に目の前で起こり、そして、仲間でクリアしていくというシーンを目の当たりにして、保護者、そして見に来てくださった地域の方々、私達自身が感動することができました。ゲームや100枚の段ボールで創意工夫をしたり、サバイバルディナーとして、紙食器とかポリ袋調理等を行いました。夜には、発表会に対してのグループを作ってミーティングをしました。メンバーもシナリオも、その時に渡されて、ひとりひとりの性格もお互いにさぐりながら、それでも子ども達は本当に頑張っていました。成果発表会は、新聞にもとりあげていただきました。ちょっと自慢気な子ども達の姿を私達は大変嬉しく思っていました。

来年に向けてまた頑張っていきたいなと思っています。

□質疑応答

Q. 参加した、子ども達の生の声はどうでしたか。

A. 小さければ小さいほど食べ慣れていないものは食べられない。

防災食に関して、私達、大人の知恵で防災食を準備します。子ども達が本当に食べられないものが、普通の好き嫌い含めてあったりするので、子ども達同士が交換し合うというやりとりもありました。

私達も子ども達と過ごすというのがあまりないことなので、最初はお世話をしましたが、途中から段々わかってくるので、お互いに食事をよそってあげたり、食器を配ったり、ビニール袋を配ったりとかという、ちょっとしたお当番のようなことを自然発生的に行うことができました。そういった子ども達自身の運営の力みたいなものも引き出せたらなというふうに考えています。



□感想

・翌日の発表会を見たお母さんがすごく感動していたシーンが見られました。きっと家での会話は、2日間こういうことをしたんだということで。それをきっかけに減災や防災の意識が家族で高まってきているのではないかなと感じました。

⑦AからZ(アートゾーン)で考える 高知の森林鉄道∞

日本は森林が多い国ですので、山の中から木を切って、それを運び出す。その運材のための設備として森林鉄道というものがありました。今は屋久島に短い軌道があるだけです。森林鉄道がたくさんあった時代の橋やトンネルが遺構として残っているという状態です。高知県の魚梁瀬地区に、かつて魚梁瀬森林鉄道という日本でも有数の長い軌道の森林鉄道がありました。そこに古いもので明治時代につくられたものから鉄道遺構と言えるトンネルや橋梁などが残っています。それが10数基、国指定の重要文化財になっているんですが、その重要文化財を後世に伝えていく。そして、その森林鉄道があった時代の歴史や文化を後世に伝えていくという目的で活動しているのが、この中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会、保存会です。こういうかたちで保存会というようなしっかりした組織を作って活動をしているのは、おそらく日本では一

番進んでいると思います。他の森林鉄道の遺構を持っている地域からは注目されている存在です。中心になっている方達は、やはり森林鉄道がかつて走っていた時代の風景を子どもの頃に見ていた人や、その当時の営林署で仕事をしてきた方、70代から80代の前半くらいの方になっています。非常に大きな問題として、保存会に新しい会員さんが入らず、皆さん高齢になっていって、活動も少しずつ低調になってきている。さあ、次の世代にどういふふう引き継いでいくかということが課題としてあったわけです。

そういう中で、今回、アートゾーンで考えるという藁工ミュージアムさんの企画を考えた方と、色々お話しする機会があって、美術館で、この森林鉄道を紹介する展示をやってみないかと。新しい若い世代の会員を増やしていくには、これまでとは違う切り口で、森林鉄道の魅力というのを伝え、表現していくことがひとつの方法ではないかということやらせていただくことになりました。当然、保存会には美術展で展示会をするためのノウハウなどはありませんでした。展示会を実現するにあたっては、藁工ミュージアムのスタッフの方など、実に色々な方にお力を借りて何とか実現できたと、そういう展示会です。

展示の内容についてです。酒井工作所製造の3.5t森林鉄道共用型ガソリン機関車というもの。これは馬路村の所有で、現在、馬路村魚梁瀬の丸山公園に保管されているものです。普段は倉庫の奥に入っていて、ほとんど見る機会がありませんが、詳しいマニアの方の中では、その全貌を見たいということでよく希望されているものです。それを運んできて藁工ミュージアムの敷地内に期間中展示をいたしました。それと、魚梁瀬森林鉄道本線が走っていた地域の立体地形模型、これを展示いたしました。また、ジオラマと林業用具です。そして、森林鉄道の写真。これは古いものが残っているんですが、現在の姿を見ていただくために土木の専門のカメラマンの方が撮影したものを10数枚見ていただく場所をつくりました。魚梁瀬だけではなく高知県内、他の地域の森林鉄道を紹介するパネル展もやりました。

関連企画としては、研究者から愛好者までということで、保存会の会長から、最近、高知大学の先生で研究に入っている方でのトークイベント、隧道の遺構を使った隧道ライブ。もうひとつ、出会い系イベントを計画していたんですが、これは予定人数に達しなくて実施することができませんでした。それと、実際に魚梁瀬に足を運んでいただいて遺構を訪ねる探索ツアーというものを実施いたしました。

展示会の入場者は最終的に803名。700名を目標にしていたので、展示会としては大成功であったと思っています。一番良かったのは、展示会を通して色んなネットワークが広がったこと。保存会は中芸を中心に活動しているので、高知市に出て来て来蜻蔵の方など色んな方とつながりができて、何人かは保存会に入って活動したいというふうに言っていた方も出てきました。当初、期待していたような成果が少しは達成できたかなと思っています。

□質疑応答

Q. 保存会は会員数と会員の地域を教えてください。

A. 約30名です。地域は、ほとんど中芸ですが、営林署のOBの方で高知市内に移り住まれている方が若干いらっしゃいます。県外で森林鉄道ファンの方が何人か会員になってくださっている方もいらっしゃいます。



□感想

・森林鉄道や鉄道系に興味があったわけではないですが、行ったらすごく面白くて、興味がわいて、残っているところをまわってみたいと思わせてもらったのですごく良かったです。

⑧ SUSAKI(art)ASSEMBLE

「SUSAKI (art) ASSEMBLE」、須崎の旧市街地を舞台に開催されたアートプロジェクトです。市内に点在している空き家を活用して、展示会場とし、高知県内に縁のある作家を招聘し、展示とそれに付随するプログラムを行いました。

2014年から須崎でやっている現代地方譚という県外から作家を招聘して、滞在制作を行なう「アーティスト イン レジデンス」と、この ASSEMBLE という県内作家の展覧会をあわせて行いました。それを2つ同時に行うことで充実したアートの体験というのを須崎に紹介し、その地域の再評価というのを目指しています。今回、参加した作家に加えてレジデンスの作家6名が展示を同時期に行い、観客にとっては2つの展覧会を一度に見るというかたちになっています。

今回のプロジェクトについて良かった点は、企画の段階で、なるべく作家の幅を広げたいと思い、多様な作家に参加してもらえたことです。世代についても、中学生から80代のベテランまで。国際展覧会に参加している人もいれば、今まであまり発表の機会をもてなかった人にも展示の機会を与えたいと思い、そういう方にも声をかけています。ジャンルも、絵画、インスタレーション、写真、あとは主に観客とのコミュニケーションをテーマにした作家にも参加してもらい、高知のアートに関する人材の豊かさというのを示せたのではないかと思います。参加作家については、ただ作品を持って来て展示するだけではなくて、なるべく主体的な参加をお願いし、地域を巻き込んだ作品や企画を提案してもらい、近隣の方とコラボレーションしたイベントや、商店街のシャッターペイントも行いました。展示の一部では、廃業した銭湯や耳鼻科の建物、それに付随するお茶室、屋外にも作品を展示して、観客は市街地をまわって作品を見て歩くというかたちになりました。普段、公開されていない個人の方の庭も会場になりました。会期中の企画の一例ですが、庭に作品を設置した平野史恵さんは、作品に関連したものを近隣の喫茶店に協力してもらい、実際に店で使ってもらいました。また、庭を使って地元のお茶の先生の協力を得、お茶の会を開きました。明德義塾の中学生、高校生による商店街のシャッターペイントのワークショップも行いました。もともとは高校と商店街の店主さんとが、独自に進めていたプロジェクトでしたが、この機会を利用して実現に至ったという経緯です。

会期中は、観客にも世代の変化があり、遠方からも訪ねて来てくれました。作家同士、あるいは住民との交流ということでは、先ほどの「アーティスト イン レジデンス」と協同でオープニングイベントを行ったり、町歩き、作品の解説のツアーを行った際は、作家にも参加してもらい住民との交流も生まれました。作品では、KOSUGEI-16という作家が、寺田寅彦が書いた、須崎を舞台にした随筆「嵐」を題材に須崎市の富士ヶ浜、海岸に作品を設置しました。この海岸に流れ着いた漂流物を使ってインスタレーションして寺田寅彦の文章を書き写したものです。見に来てくれた方が、この作品にメッセージを残してくれて、作品を通したコミュニケーションが成立していったのではないかと思います。

良かった点を挙げると、実行委員会は須崎市の市民を中心に組織されています。必ずしもアートに詳しい人達ばかりではありませんが、それぞれの得意分野を生かしてオープニングイベントをオーガナイズしたり、音楽活動をしている者には、ライブの企画をしてもらったりしました。また、借り手のいなかった物件を使ったことが地域活性化の役に立ったのではないかと思います。今まで会場に使った古民家等の物件は、ほとんど入居者が決まり、そのうちの一件は、ゲストハウスとして運用予定で改修工事が進んでいます。今回使った耳鼻科の建物も今後、借り上げて活用する計画があがっているそうです。

苦労した点は、人材が圧倒的に足りていないということです。一番残念だったのは、もともとは地域の小学校との連携を取りたかったのですが、スケジュールの調整がうまくできなかった事です。

今回、作家が主体的に楽しんで参加してくれたので、そういう方達に助けられて、達成感のあるイベント

になったと思います。須崎市は美術館とか博物館などがない地域なので、アートを身近にする催しをこれからも続けていきたいと思っています。

□質疑応答

Q. 現代地方譚「アーティスト イン レジデンス」の企画を広げるようなかたちでの「art ASSEMBLE」だったと思いますが、地元の方の反応は前回と比べて何か変わったり、反響はありましたか？

A. これまでの地方譚の中でも高知の作家を中に入れたり、周辺の空き家を活用した展示を行っていましたので、今回、分けたことで特別変化はなかったように思います。レジデンスは、県外作家中心になりましたので、それを補うかたちで高知の作家と県外の作家との交流を目的に「ASSEMBLE」というかたちで行いました。

⑨ Artist in residence Kochi 2016

この「Artist in residence Kochi 2016」の内容としては、写真家の方を招いて高知に2週間滞在していただき、土佐市の写真を撮っていただいた後、写真の展示を行うというアートプロジェクトでした。

「Artist in residence Kochi」の特徴としては、実家に滞在してもらうというかたちでやってまして、「Artist in residence 実家」というのをこれから流行らせていければいいかなと思っています。実家に滞在するメリットとしては、経費的などころが安くなるということと、うちの親が話し好きなので、良くも悪くも色んな情報を入れてくれる。高知のヒアリングという意味でも、良い情報を色々入れてくれます。

今回、撮影してもらった写真家の方は、東京で劇団の写真撮影したり、写真展をしている方です。今は岡山のほうにUターンされて岡山に在住しています。劇団「キャラメルボックス」さんや、過去には、「演劇ぶっく」のカメラマンなどもされていました。

今回、会場として使わせてもらった、土佐市観光 Style さんは、土佐市地域雇用創出推進協議会が実施してきた事業を引き継いで活動している団体です。い草の継承や保存などの活動や、土佐市を「ずっと暮らしたい町、訪ねてみたい町、いつか住んでみたい町に」するというスローガンのもとに合田さんと花井さんという方が活動されています。会場はとても広く、素敵なお場所でした。滞在制作は、写真家の伊東さんが、町中を自分の足で歩きながら、ドラゴンバスというコミュニティバスに乗って様々な場所に行き、写真を撮るという活動を2週間しました。

土佐市にある山の手保育園の年長さんを対象に写真のワークショップもしました。これは簡易カメラの「写るんです」を子どもに渡して、それで制限枚数自由に撮ってもらうというワークショップでした。その後、12月23日に子ども達にアルバムとして渡すということをしました。最近デジタルカメラが多いので、インスタントカメラを使って写真を撮るということに全く触れたことのない子どもが多く、デジタルだと何枚も撮り続けられるのでバシバシ撮っちゃうけど、今回は27枚撮ったら終わりというところを子どもに説明して、スタートしました。早い子は一瞬で撮り終わっていたり、ケンカが始まることもありました。遅い子はすごい入念に場所を探したり、友達と選んだりしながらやるので、子どもそれぞれの想像力などを鍛えられるんじゃないかと思っています。早く終わった子に対しては、伊東さんが、昔の映写機に触れてみたり、過去に撮影した蛍の写真パネルなどを見せながら、説明したりしていました。

その後、土佐市滞在中で撮った写真を、土佐市観光 Style のほうで写真展をやらせてもらいました。展示名は伊東和則写真展「向かう」です。実施期間が11月14日～12月25日まで、木・金・土・日の11時から4時まで開催期間としました。土佐市観光 Style さんが持っていた家具とか、古道具的なものをお借りして写真展の展示のものとして使わせてもらいました。高知に住んでいる舞台関係者の人や、香川で舞台芸術とかの制作をしている方に手伝ってもらって、展示ギャラリーを大体後半の1週間弱、ギャラリーのほうを作らせてもらって展示をしました。伊東さんの作ったステートメントという、開催中に入口に掲載してもらっ

た「今まで人は自然と向き合い、共に暮らし、自然の恵を受け取り続けてきたということに対して、人は自然に立ち向かって、自然をすりかえて、自然の脅威を進めようとしています」という文章は、何か色々と考えさせられるなどと思っています。

今後も色々な場とか人とかと組んでアートプロジェクトを続けていこうと思っています。

□質疑応答

Q. 来場者の反応はどうか？

A. 土佐市にはこういうスペースがあまりないので、こういう場所で写真展というのはすごいありがたい、これからも続けて欲しいなど。土佐市観光 Style という空間についても、すごい素敵な空間だという話を見に来た方からもいただいたので、良かったです。

□感想

・土佐市出身の石元泰博さん、カポエイラの団体さんも、移民の文化というところが土佐市に縁があるとか、色々重なるところがあります。何か少し土佐市を掘り起こすとか掘り下げるとか、何かその部分はつながっていくといいなと思いました。

★意見交換★

- ・今回は、最初から採択団体が情報共有できるメーリングリストを作成すればよいと思う。メールが必要だった、色々してほしかった、連絡が遅すぎた等もあると思うので。
 - ・皆さん共通して苦労するところは集客面だと思います。このイベントは、こういう媒体を使って集客、こういう期間、雨天だったよなど、そういうのもあわせてデータベースがあったらすごく活用できるんじゃないかなと思います。
 - ・発信のきっかけとして、まとめてチラシやポスターを送ってくださっても、もともと興味がある人達は探して見つけてくれるので、入り口としては狭いかなと思う。
- せっかく芸術祭という企画をやるのであったら、最初に、発信企画をまとめて紹介ブースみたいなものかまえて発信する機会があれば良いと思う。



Q. (採択団体間での) メーリングリストでは、どういった繋がりをされていたのかを教えてください。

A. 情報共有、自分のイベントを宣伝するのも良い。こういうこと困っていますということがあれば、お互い助け合えるような場であればいいなと思って作成しました。今回は、～するにはどうしたらいいですかという相談があり、それにメールベースでお答えする。今回は個人的なメールで終わりました。

第45回高知県芸術祭文芸賞 募集要項

➤募集部門

短編小説(1人1編)／詩(1人1編)／短歌(1人3首以内)／俳句(1人5句以内)／川柳(1人5句以内)
* () 内は応募できる作品数

➤作品送付先

〒781-8123 高知市高須 353-2 ((公財)高知県文化財団内)「高知県芸術祭執行委員会事務局」あて

➤締切日

平成28年9月30日(金)当日必着

➤選 賞

「高知県芸術祭文芸賞」(各部門に1編)
「高知県芸術祭文芸奨励賞」(短編小説部門は2編、他部門は5編)
その他、佳作が選出される場合もあります。

➤応募時の注意事項

- 類似(類想)作品の存在が明らかになった場合や、盗作が疑われる場合は、賞の発表後でもこれを取り消すことがあります。その場合に発生した著作権侵害に関わる問題は、応募者の責任となります。また、取り消しにより生じた損害(経費)については応募者に負担していただきます。

➤応募条件

未発表作品に限り、応募者は高知県在住者に限ります。
*私的な会や学習会で発表した作品、メンバー内での回覧、資料とするための目的で活字化した作品は「未発表」とみなします。
*その他、上記の基準等に則して、事務局が判断する場合がありますので、ご了承ください。

➤作品への記載事項

① 部門名 ② 氏名(ペンネームご使用の場合は併記) ③ 住所 ④ 電話番号 ⑤ 年齢 を必ず明記してください。記載場所等は部門ごとに異なります。(下記表参照)

➤部門ごとの注意事項

部 門	記載方法・注意事項
短 編 小 説	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作品本文は 400 字詰原稿用紙 10 枚以内。 ■ パソコン等の場合、20 字×20 行で設定してください。フォントは 12 以上。 ■ 必ず、作品本文にページ番号をふってください。ホッチキス留めは不要。 ● 1 枚目：タイトルを明記 ● 2 枚目～11 枚目：作品本文 ● 12 枚目：部門名・氏名・住所・電話番号・年齢 を明記。
詩	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作品は本編 400 字詰原稿用紙 2 枚、37 行以内。 ● 1 枚目：1 行目上方に部門、作品名、2 行目下方に氏名を記入。(3 行目はあけて) 4 行目から作品本文を書き始めてください。 ● 3 枚目：住所・電話番号・年齢 を明記。
短歌・俳句・川柳	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通常はがきを使用してください。*学校から、まとめて応募の場合は、はがきサイズの用紙へ記入しても可。 ■ 全部門とも自由題。作品は楷書・タテ書きで書いてください。 ● はがき表面に部門名を必ず記入してください。 ● 氏名・住所・電話番号・年齢 は作品末尾に記入してください。

- *応募作品は返却しません。
- *個人情報は、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用させていただきます。
- ただし、入選作品については、在住市町村名、氏名、年齢を公表します。
- *入選作品の著作権は、高知県及び(公財)高知県文化財団が所有します。

➤審査員(五十音順)

短編小説 杉本雅史、米沢朝子、若江克己
詩 猪野 陸、小松弘愛、長尾 軫
短 歌 市川敦子、梶田順子、中野百世
俳 句 橋田憲明、松林朝蒼、味元昭次
川 柳 小笠原望、窪田和広、西川富恵



《文芸賞作品募集チラシ》

➡ 応募状況と入選者数

	応募総数	応募人数	文芸賞	奨励賞	佳作
短編小説	54 編	54 人	1	2	0
詩	136 編	136 人	1	5	5
短歌	330 首	132 人	1	5	5
俳句	765 句	298 人	1	5	10
川柳	473 句	106 人	1	5	10
合計	1758 作品	726 人	5	22	30

※受賞者名と受賞作品名は 34 頁参照

➡ 表彰式

開催日：平成 28 年 11 月 27 日（日）

会 場：高知県立文学館ホール

※表彰式への出席は、文芸賞・文芸奨励賞受賞者



《文芸賞入選作品集表紙》



➡ 副賞

文 芸 賞 表彰状、図書カード、高知の逸品セット（内原野記念陶器（皿・湯呑）、カタログギフト「結」、Pearl Berry ペンケース、もくれース（フォトフレーム・リモコンたて）、土佐旅福 手ぬぐい）

文芸奨励賞 表彰状、図書カード、高知の逸品セット（内原野記念陶器（湯呑）、Pearl Berry ペンケース、土佐旅福 手ぬぐい）

佳 作 表彰状、図書カード

入選作品一覧

部門名	受賞名	名前(ペンネーム)	作品 *小説、詩は作品名
小説 短編	文 芸 賞	大崎 正 徳	残響
	文芸奨励賞	西村 雅 人	散髪屋
		西 更 紗	シャッター
詩	文 芸 賞	高橋 治 光	色即是空
	文芸奨励賞	國 廣 聖	二人だと
		童 眼 まさみ	朱夏
		和 田 よしみ	私が死んだなら
		甫 木 恵 美	ヒガンバナ
		濱 田 喬 子	小さなお葬式
	佳 作	下 元 真 人	送り
		重 田 雅	きらきら宝箱
		澤 村 豊 彦	おおい SAWAMUR くん
		東 あすか	中学一年生
井 関 翼		ひこうき雲	
短歌	文 芸 賞	山 脇 志 津	混迷の時代なればこそ孫の未来さきくあれとぞ祈るはちがつ
	文芸奨励賞	石 元 美 妃	夜空から落ち葉がそっと落ちてくるその葉の色は夜空の色だ
		谷 口 益 恵	手秤に分量確かめ施肥を為す農夫の指の太き節ぶし
		山 崎 マ リ	国民に添い四半世紀の天皇の言葉あたらし象徴のかたち
		田 上 悦 子	にぎり返す力伝わる手のひらにことばを持たぬ生徒の返事
		松 原 一 成	認知症になっても彼は船乗りか部下の名を呼び船橋に立つ
	佳 作	不 破 陽 子	もらい風呂の裸電球ほの暗く五右衛門釜に背の痛かりき
		川 上 理 恵	SF のロボット攻め来るときのごと風車列なす遠山の尾根
		曾 根 明香里	肝試し暗闇に一人怖すぎて早く来てよと待つお化け役
		野 村 丞 子	一票を投じて帰る道に会うユニフォームの少年の自転車の列
今 井 桃 子		君からの返信来たる午前二時フェイスブックは眠たげな顔	
俳句	文 芸 賞	柴 岡 弘 城	炎天や赤秀の気根地に届き
	文芸奨励賞	山 崎 光 子	軍鶏を抱き戦歴を抱き夕端居
		山 中 則	冬瓜の煮くづるるまふうすみどり
		大 窪 雅 子	神楽見に十六夜の城上りけり
		竹 崎 い と	まむし酒その後の話きかざりし
		山 下 正 雄	尾根行くは天刑めきし露時雨
	佳 作	大 前 逸 子	遍路ゆく鯛の木を振りかへり
		西 込 と き	藻の花や昔木舟の通学路
		田 村 乙 女	すすき野をまっすぐ行けと母の声
		橋 詰 千 恵	月白や人の気配の近づきぬ
石 崎 雅 男		初産の馬小屋に先ず新走り	
川柳	文 芸 賞	富 士 田 三 郎	無人機が戦のいろは知りたがる
	文芸奨励賞	土 居 志保子	無印のころを包む掌
		岡 林 裕 子	アルバムに風の座った椅子ひとつ
		近 藤 真 奈	満月のむこうにたっぷりの秘密
		藤 田 ゆずあ	めざましはぜんぜんやくにたちません
		濱 田 久 子	五番街のマリーを探すスマホ手に
	佳 作	橋 田 綾 子	矢印は迷路を向いて立っている
		岡 本 美 優	満月に魚がいると思う雨
		桑 名 知華子	風なのね囁き上手なんだもの
		江 口 桂 子	いつからか行方不明になった夢
佐 野 佳葉子		「前・ならえ」ならって列はくねくねと	
佳 作	森 乃 鈴	優しさはいらぬ AI なんだから	
	川 澤 歩 佳	オリオン座足をふり上げヨガをする	
	北 岡 永 遠	カマキリは秋のにおいをつかまえる	
	里 見 忠 純	土食べるくいしんぼうのトラクター	
	中 越 涼	雲ひとつ残さず晴れるひみつの日	

◎共催行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
 ※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。

部門名	行 事 名	主 催 団 体	日 程
舞踊・ダンス	高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル 2016 アーティスト・イン・レジデンス 2016 ヴァルヴァ・タロネン&ナンニ・ヴァパー・ヴオリ(フィンランド)	高知県立美術館	アーティスト滞在期間： 10月上旬～11月上旬 ショーイング： 平成28年11月3日(木・祝)
美術	石元泰博・コレクション展 「なかま ―シカゴの学生時代」	高知県立美術館	平成28年8月9(火)～11月27(日)
	シャガール・コレクション展 「ダフニスとクロエ 後期」 「そして地上には・・・」	高知県美術館	「ダフニス・クロエ 後期」 平成28年9月6(火)～11月13(日) 「そして地上には・・・」 平成28年11月15(火)～平成29年1月22(日)
	第20回高知県障害者美術展(スピリットアート)	高知県、 高知県障害者美術展実行委員会	平成28年10月7(金)～10月16(日)
	コレクション・テーマ展 「鳥にうっとり♡」	高知県立美術館	平成28年10月19(水)～12月18(日)
	高知県立美術館 「高橋コレクションマインドフルネス! 2016」展	高知県立美術館、 KSS さんさんテレビ	平成28年11月3日(木・祝)～ 平成29年1月22日(日)
映画	高知県立美術館秋の定期上映会 「美術館と繋がる大切な宝物」映画上映会	高知県立美術館	平成28年11月19(土)・11月20(日)
文芸	朗読の会「読んで見る楽しみ」	高知県立文学館	平成28年9月17日(土)
	企画展「源氏物語展～雅のDNA～」	高知県立文学館	平成28年10月1日(土)～ 平成29年1月9日(月・祝)
	朗読の会 「近代高知詩人たちの系譜～情熱と魂の叫び～」	高知県立文学館	平成28年10月15日(土)
	スウェーデン児童文学パネル展	高知県立文学館	平成28年11月1日(火)～11月27日(日)

会 場	参加者数(人)	行 事 内 容 と 成 果 等
高知県立美術館	227	海外アーティストが高知に長期滞在し、地域住民や地域で活動するアーティストと交流しながらワークショップや作品創作を行うことで、ここでしかできない独自の創作活動を展開することができた。
高知県立美術館・石元泰博展示室	7,071	卓越した造形感覚と、美しいモノクロームの諧調で国際的に評価を得ている高知ゆかりの写真家・石元泰博。本展では、写真を学んだシカゴのインスティテュート・オブ・デザインでの作品と、当時交流のあった写真家の作品を約60点紹介しました。
高知県立美術館・2階第1展示室	2,808	本展覧会では、マルク・シャガールによる1961年刊行の挿画本『ダフニスとクロエ』所収の版画21点を主に展示した。古代ギリシアの詩人ロンゴスによる原作の挿絵という本シリーズの特徴を鑑みて、物語のあらすじが来館者にも伝わるよう、キャプションには各作品の場面に応じた説明を載せた。
高知県立美術館1階・第4展示室	5,282	1,052点の応募作品のなかから、245点を展示しました。独創的で感性溢れる作品の数々は、訪れた多くの人に感動を与え、障害のある方への理解につながっていることが感じられます。
高知県立美術館・1階第4展示室	4,264	当館の収蔵品から鳥を描いた絵画を展示し、同じ鳥を扱う作品でも時代や画家によって多様な芸術表現がある様を紹介した。毎週土曜日には学芸員がギャラリートークを行い、計9回の中で40名近くの来館者が参加した。
高知県立美術館・2階第2、第3展示室	9,102	日本屈指の美術コレクター・高橋龍太郎氏のコレクションを紹介した本展では、日本の現代アートを牽引してきた草間彌生や奈良美智、村上隆、会田誠に加え、合田佐和子ら本県ゆかりの作家作品を展示し、来場者からの好評を得た。
高知県立美術館ホール	192	過去に高知県立美術館の上映会に来館したアビチャッポン監督とワイズマン監督の新作と、前作の映画では閉館になったになったままのアムステルダム国立美術館のその後を追った作品の3本を上映し、美術館との繋がりを再確認した。
高知県立文学館・1階ホール	43	「島田ゆか絵本原画展」にあわせ、島田ゆかさんの「バムとケロ」シリーズや、中脇初枝さんの絵本などを当館カルチャーサポーターの朗読で紹介した。椅子や机を撤去して、マットの上に座っていただくなど、気楽に聴いてもらえるようにレイアウトを工夫した。 お客様からはゆったりと絵本を楽しめたなどのお声をいただきました。
高知県立文学館・2階企画展示室	4,264	『源氏物語』の中の和歌とあらすじをパネルで紹介した。早稲田大学図書館と監修者・中野幸一氏所蔵の資料より、和書や袖珍卷子本等を展示した。薫き物の原料や道具を展示したほか、截金ガラス『源氏物語』シリーズや『あさきゆめみし』特設コーナー等も設置し、お客様からは、高知にいながらにして『源氏物語』に関する貴重な資料を見ることができた等の評価をいただくことができた。
高知県立文学館・1階ホール	19	「近代高知詩人たちの系譜～情熱と魂の叫び～」にあわせ、明治から昭和・平成にかけて高知の詩人が詠んだ詩を、当館カルチャーサポーターが朗読した。展示担当者の解説も交えての紹介であったので、分かりやすいとお声をいただいた。
高知県立文学館・1階こどものぶながく室	372	「長くつ下のピッピ」70周年を記念してスウェーデン大使館主催で作成されたスウェーデン児童文学の作者や登場人物を紹介する巡回パネル展を高知県立文学館1階こどものぶながく室にて開催した。

文 芸	第19回児童生徒文学作品朗読コンクール 県審査及び記念講演会	高知県立文学館	平成28年11月13日(日)
	朗読の会「紫がたり」	高知県立文学館	平成28年11月19日(土)
総 合 文 化	特別展 「田村遺跡群とその時代2」 - 弥生時代 中期～終末 -	高知県立埋蔵文化財センター	平成28年10月24日(月)～ 平成29年4月7日(金)
	古代ものづくり体験教室 (銅鏡づくり、編布づくり、琥珀勾玉づくり)	高知県立埋蔵文化財センター	銅鏡づくり:平成28年10月29日(土) 編布づくり:平成28年11月21日(月) 琥珀勾玉づくり:平成28年12月3日(土)
	薩長同盟 150 年記念 「再検証・薩長同盟」展	高知県立坂本龍馬記念館	平成28年11月5日(土)～ 平成29年1月6日(金)
	Bunkazaidan こどもクラブ 「きらきらカラフルモンスターを作ろう！」 講師：なかひらじゅんこ (イラストレーター)	(公財) 高知県文化財団	平成28年10月15日(土)
	ビルヂングからだ工場	(公財) 高知県文化財団	平成28年10月27日(木)・28日(金)
	特別展 「発掘された日本列島 2016 新発見考古速報」	高知県立歴史民俗資料館	平成28年11月12日(土)～ 12月18日(日)
	第58回中国・四国ブロック民族芸能大会	第58回中国・四国ブロック 民族芸能大会実行委員会	平成28年11月20日(日)
	ママ・レヴィーユ 《クリスマスミニコンサート》	(公財) 高知県文化財団	平成28年12月4日(日)

高知県立文学館・ 1階ホール	552	県内の小・中学校校から121名が参加し、3会場の地区審査を経て20校24名が県審査に出場。特別審査委員には翻訳家について講演して頂き、貴重な機会となった。今後も朗読を通して文学に興味を持っていただけるよう、発展させていきたい。
高知県立文学館・ 1階ホール	64	「源氏物語展～雅のDNA～」にあわせ、『源氏物語』より「紅葉賀」など全4帖を、当館カルチャーサポーターが朗読した。お客様からは、原文は難しかったが、最初に現代語訳を朗読することで、物語の内容も分かりやすく、世界に入っていたとのお声をいただいた。
高知県立埋蔵文化財センター	684 ※12月まで	田村遺跡群・西分増井遺跡群・バーガ森北斜面遺跡・上ノ村遺跡など弥生時代の後半期の代表的な遺跡から出土した遺物を展示し、他に写真パネルや説明パネルを用いて当該期の特徴をわかりやすく展示した。展示報告会・展示品解説を行い、理解を深めてもらった。
高知県立埋蔵文化財センター	銅鏡づくり 26 編布づくり 2 琥珀勾玉づくり 17	◆銅鏡づくり：遺跡から出土した銅鏡や青銅器の作り方について理解を深めてもらった後、実際に低温融解合金を溶かして鑄型に流し込み、鏡面をサンドペーパーなどで磨きあげる。銅鏡づくりの体験を通して、古代人の知恵や技術の一端に触れてもらった。 ◆網布づくり：遺跡から出土した編物や織物について理解を深めてもらった後、縦紐と横紐を交互に編んでいってコースターを作る。縄文時代から現代まで受け継がれている技法を体験することで古代人の知恵や技術の一端に触れてもらった。 ◆琥珀勾玉づくり：出土した勾玉の意味や歴史について理解を深めてもらった後、琥珀をサンドペーパーなどで勾玉の形に成形していった。製作体験を通して、古代人の知恵や技術の一端に触れてもらった。
高知県立坂本龍馬記念館	19,026	薩長同盟から150年を迎えるにあたり、研究史の側面から薩長同盟を捉え直し、関連資料を展示した。中岡慎太郎館と共同で図録を発行、展示見学バスツアーと講演会を実施した。
イオンモール高知・ 専門店街1Fセントラルコート	38	プラスチックのコップに、カラーセロハンや布などでデコレーションを施し、中にLEDキャンドルを入れて、光るモンスターを作りました。定員を超える大盛況で、子供達は時間を忘れてしまう程制作に夢中でした。作ることの楽しさを体験していただきました。
須崎市立多ノ郷小学校 高知中央高等学校 須崎市立須崎小学校	279	小学校では、簡単なダンスやゲームをして、子供たちに体を動かすことの楽しさを体験していただきました。中央高校のダンス部の皆さんは創作ダンスに挑戦し、いい刺激になったと先生方からも好評でした。
高知県立歴史民俗資料館	2,223	文化庁ほか巡回館主催。旧石器時代～近代の22遺跡の最新の調査成果を展示。併せて、高知会場地域展では田村遺跡群の青銅器を展示。さらに県内外から講師を招聘し、講演会・講座を、また展示解説、体験学習を実施。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	約500	本大会には中四国9県10団体の民俗芸能保存団体が出演しました。観客の方々は県内各地また県外からもお越しいただき、アンケートでは「各地の特色、歴史を学ぶよい機会になりました。子どもたちにもっと伝えていきたい。」との意見がありました。
イオンモール高知・ 専門店街1Fセントラルコート	80	子どもから大人まで楽しめる、定番のクリスマスソングと童謡が曲目の中心でした。小さなお子様には、演奏を聴きながら鈴でリズムを取っていただいたり、ヴァイオリンやベルを鳴らす体験をしていただき、大変好評でした。

◎協賛行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
 ※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。

部門名	行 事 名	主 催 団 体	日 程
演 劇	喜多流回雪臺 高知栗谷会 秋の会	喜多流回雪臺 高知栗谷会	平成28年10月16日(日)
	ヨーロッパ企画第35回公演 「来てけつかるべき新世界」	高知県立県民文化ホール	平成28年10月21日(金)
	第11回黒潮町民大学出演 劇団笛の会第99回公演“いいつたえ” —昭和南海地震からの伝言1幕—	劇団笛の会	平成28年10月22日(土)
舞 踊・ダン ス	Modern Ballet Studio SPROUT 発表会	Modern Ballet Studio SPROUT	平成28年10月15日(土)
	花柳昌延 芸歴を祝う会 延の会	延の会	平成28年10月16日(日)
	第63回内山時江モダンバレエ公演 「アルプスの少女ハイジ」	内山時江モダンバレエ研究所	平成28年12月3日(土)
音 楽	高知街ラ・ラ・ラ音楽祭 2016	高知街ラ・ラ・ラ音楽祭 2016 実行委員会	平成28年9月18日(日)
	32回午後の音楽会：声楽レクチャーコンサート	高知音楽協会	平成28年9月24日(土)
	スズキ・メソード高知支部ヴァイオリン科 第56回定期演奏会	スズキ・メソード高知支部	平成28年10月1日(土)
	澤口俊之講演会「やる気脳を育てる」	高知ピアノ指導者協会	平成28年10月2日(日)
	第7回琴秀麗会チャリティーコンサート	琴伝流大正琴高知県支部	平成28年10月10日(月・祝)
	Dios Anthos Choir 1st コンサート	Dios Anthos Choir	平成28年10月10日(月・祝)
	長宗我部元親 風の声コンサート	松村紫乃&グループ琴	平成28年10月14日(金)

会 場	参加者数(人)	行 事 内 容 と 成 果 等
高知県立美術館・能楽堂	14	会員の高齢化につれ、演目数も少なくなり、当然の結果として客席も寂しくなりました。古典芸能とりわけ能楽はとっつきにくい。各分野でも同じ傾向にあると思いますが、これに負けず頑張っており取り組んでいきます。
高知県立県民文化ホール・グリーン	444	2年連続公演の成果が出たのか集客率98%とほぼ完売であった。また昨年と同じく8月上旬にヨーロッパ企画の劇団員を講師に招き、県高校演劇部らを対象としたワークショップを開催。こちらも参加者が増え、それに比例して本公演の高校生来場者も増加した。誰もが楽しめる内容の本公演と丁寧的確な指導のワークショップで確実にファンが増加していると思われる。この企画を軸にして地元の芸術団体との関係を深めていきたい。
高知県立ふるさと総合センター(黒潮町入野)	80	昭和南海地震体験者の証言を舞台化したものですが、黒潮町教育委員会の十分な支援と協力を頂き、きちんとした芝居を作ることが出来、観客の評価も良かったのですが、入場者が少なかったことが残念なことです。
高知県立県民文化ホール・オレンジ	1,270	出演者一人一人が、自分の役を踊り、演じ、また、大勢のお客様からの温かい拍手もいただき一年間の成果を十分に発揮することが出来ました。
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	600	長唄・鳴物の方々を大破、東京より招いての日本舞踊公演は伝統ぶんか子供教室の子供達の踊り新名取のお披露目、各流派の賛助出演の方々の踊りと大変盛況のうちに終える事ができました。
高知県立美術館ホール	257	第一部小品集「Dance Dance Dance」 生演奏とダンサーのコラボで、いろんなジャンルのダンスが楽しめ、演出がよかった。 第二部「アルプスの少女ハイジ」 各自が自分の役をしっかりと演じていて、生き生きと踊り、素晴らしかった。地方においても色々な事が出来る、やっていこうと、改めて思いました。
中央公園 / 他9会場	3,500	台風が近づいて天候の悪いなか、多くの方に音楽を楽しんでもらえた。商店街の会場は、雨の為か例年よりもぎわっていたようだった。今年で解散するBiscottiさんの演奏のときには雨もあがり会場が一体となって今年のラララを終えた。
高知県立美術館ホール	241	今年モーツァルト没後225年、レーガー没後100年を記念してのプログラムでした。聴衆の皆様が知っている歌を入れ、日本歌曲とドイツ歌曲の演奏と解説を交えての音楽会で32回を迎えました。出演はSop 田村歌穂、Ms 島崎照代、ピアノ宮田信司、塩田彩乃、安光万里子と女声合唱・リングラインでした。出演者の中からピアノソロもありプログラミングと共に会場の皆様喜んで頂きました。
高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	98	一部独奏と中級クラス中心のアンサンブル、二部スズキ・メソードの演奏スタイルである斉奏とシンプルな構成内容でした。演奏会までの練習回数は例年に比べ少なめでしたが、集中して演奏している様子が何れも本番の経験は大切だと実感しました。
高知県立県民文化ホール・グリーン	500	脳科学者澤口俊之講演会は幅広い年齢層の方々に来場頂き、皆様の熱意を会場中に感じられる講演会でした。人間性知能HQについて伺い、ピアノを習う効果や、より効果的にHQを発達させる方法等興味深く伺う事が出来ました。
高知県立美術館ホール	約 250	・ステージスピーカーとサスライトを設備付加した事で演奏がしやすかった。 来場者からも良い評価が聞けた。 ・演奏技術の向上を数多くの来場者から賞賛いただいた。 ・プログラムの内容を検討する。
高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	127	全3ステージ構成でオープニングとアンコールを含めて15曲を披露。特に「積水ハウスの歌」などのTVソングを中心とした第2ステージ「なでしこセレクション」は笑いと拍手に包まれ、好評を博した。
高知県立美術館ホール	26	活躍中の作曲家、佐藤容子氏に委嘱の長宗我部元親を、テーマ曲『長宗我部元親 風の声』が多くの人に大きなインパクトを与えた。和風の中にも現代の調べがハーモニーとなり絶賛をあげた。

女声合唱団 Coro Belfiore 第4回定期演奏会	Coro Belfiore	平成28年10月23日(日)
高知コンサートグループ 第64回定期演奏会	高知コンサートグループ	平成28年10月29日(土)
下八川賞 40周年記念コンサート	(公財)高知新聞厚生文化事業団	平成28年11月3日(木・祝)
第35回 定期演奏会	高知フライデーウインドアン サンブル	平成28年11月5日(土)
下八川圭祐記念 第40回高知音楽コンクール(下八川賞)	(公財)高知新聞厚生文化事業団	平成28年11月6日(日)
高知コーラス合笑団 第58回定期公演	高知コーラス合笑団	平成28年11月6日(日)
第2回ヤマハジュニアピアノコンクール ～四国西南地区 予選会～	ジュニアピアノコンクール 実行委員会	平成28年11月6日(日)
都山流尺八高知県支部 平成28年度 定期演奏会	都山流尺八高知県支部	平成28年11月6日(日)
いの混声合唱団 第37回定期演奏会	いの混声合唱団	平成28年11月12日(土)
第24回高知県民謡まつり	高知県民謡協会	平成28年11月13日(日)
オペラ四万十	オペラ四万十をまもる会	平成28年11月26日(土)・27日(日)
Anointed mass choir GOSPEL Xmas 2016	Anointed mass choir	平成28年12月3日(土)
いいことがありそう！連弾コンサート	高知県ピアノ指導者協会	平成28年12月4日(日)
エレクトーンステージ2016・発表会 ジョイフルライブ in 四万十	ジョイフルライブ実行委員会	平成28年12月11日(日)

高知市春野文化ホール・ ピアステージ	190	第4回演奏会(定期)は高知市や高知市教育委員会の他県内の主な報道機関の後援を頂き春野町内外の協賛各社の御支援により開催することが出来ました。新しく参加された方が約60名(アンケートに書かれた130名の内)これからも参加される方が増える事に期待をしたいと思います。構成が良かった事、合唱レベルが前回よりも上がったという批評を受けました。
高知県立県民文化ホール・ グリーン	232	無事終わりました。入場者数232名、義援金は52689円集まり、熊本県社会福祉協議会[災害ボランティア活動支援金]に送ります。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	1,020	下八川賞40周年を記念して開催したコンサート、第1部は土佐女子中高と学芸中高のコーラス部の合唱。第2部は第30回～36回の上位受賞者6名の演奏で多種多様な才能を披露。第3部では、宿毛市出身のソプラニスタ岡本知高さんが、ゲスト出演6曲披露し、途中の2曲を土佐女子、学芸のコーラス部も参加し同じ舞台に立った感動的なステージとなった。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	943	吹奏楽のステージを3部構成で実施。2部の企画ステージでは、劇団「ゆまにて」と協力して、お客様に喜んでいただける良いものができた。本年は、第35回の記念ということもあり、過去最高の来場者数となった。
高知県立県民文化ホール・ グリーン	197	40回目の節目を迎えた本コンクールは、高校生12名、一般15名の参加で、ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽の各部門で開催しました。1位は該当なしとなりましたが、下八川賞2位、3位、高校生が対象の高知音楽奨励賞5名の計7名が受賞しました。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	757	当日はお天気にも恵まれ、開場前から多くの方に並んでいただき、開場と同時に1Fの多くの席が埋まりました。今年は「ふるさと」をテーマに高知にちなんだ曲を多く取り入れ、皆で歌いましょうのコーナーでも「県民の歌」を取上げ、認知度を高めました。来場者は昨年より、若干少なかったものの、多くの方に最後まで聞いていただき、成功のうちに終了しました。
四万十市立文化センター・ 大ホール	200	西南地区佐住のピアノ学習者(幼～中学生)を対象としたピアノコンクール地区予選。昨年、四国大会に出演した方々の演奏も披露されました。コンクールに参加された生徒さん達の演奏は、去年よりも完成度が高く聞きごたえがありました。
高知市文化プラザかるぽーと・ 小ホール	130	「三曲演奏」を県民の皆さんに広くご紹介することを目的に開催しました。演奏曲は尺八曲が3曲、糸方との合奏曲が10曲、合わせて13曲としました。尺八独奏曲、少人数や多人数での合奏曲を演奏いたしました。演奏の形式に変化を持たせました。昨年と比べ会員の吹奏力にも一段と向上の跡が見られ、糸方のご協力も得て内容のある演奏会となりお客様に楽しんでいただけたと思います。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	800	祈りの曲、叙情歌、平井康三郎作品、男声女声に分かれての紅白歌合戦、女声合唱団コールグルッペさんの賛助出演、そして組曲「心の四季」などのステージを会場一杯のお客さまと共に楽しんだ。
高知県立美術館ホール	約200	民謡協会加入団体が参加し、8団体の三味線・尺八に合わせて唄うオープニングに始まり、全国の民謡を中心に、それぞれの団体の特徴を活かした三味線・尺八・太鼓の演奏やその伴奏に合わせての唄や踊りを披露しました。
窪川四万十会館	900	出演者、舞台運営スタッフ、合わせると延べ120名以上にもなる人数で執り行われた本公演も、たくさんの方々からのご支持、ご協力を頂き、両日満席で「おらが町のオペラ」として大盛況の内に閉幕する事ができました。
高知県立県民文化ホール・ オレンジ	1,237	コンサートはリピーターも多く、年々客席の盛り上がり華やかになり、ステージ上でも励まされます。観客のうち、1割は、子どもチケット。客層が満遍なく各世代に渡り、楽しんでもらえることを嬉しく思いました。
高知県立美術館ホール	300	デュエットさんの連弾演奏は大変楽しく、迫力があり聴衆をひきつける魅力がありました。よさこい鳴子踊りをアレンジして演奏してくださった時は、会場の手拍子で一体感が生まれより盛り上がり、連弾をしたい!と思えるコンサートとなりました。
四万十市立文化センター・ 大ホール	約300	幼児から成人の方まで、和やかな雰囲気の中で、アンサンブル・連弾・ソロ演奏や、オリジナル曲の発表などを行いました。日頃の練習の成果を、家族や親しい友人の前で発表でき、良いステージ経験をつめたと思います。

美術	第 25 回のいち動物公園写真コンテスト作品展	(公財)高知県のいち動物公園協会	平成28年9月11日(日)～ 11月3日(木・祝)
	「Takeshi Sato ローラーアートの世界…2016 in Kochi」	(公財)高知市文化振興事業団	平成28年9月17日(土)～ 9月19日(月・祝)
	「長寿の画家たち」展	中土佐町立美術館	平成28年9月29日(木)～ 12月11日(日)
	和紙と世界のアーティストたち	小林久子、ピーター・ミラー、 ローマン・カメス、マンシェン・ ワン、いの町紙の博物館	平成28年10月1日(土)～ 10月30日(日)
	中田耕一墨絵展	中田耕一、いの町紙の博物館	平成28年10月22日(土)～ 11月13日(日)
	第 57 回室戸市美術展覧会	室戸市教育委員会 生涯学習課	平成28年10月25日(火)～ 10月30日(日)
	リチャードアンセル展	リチャード・アンセル、 いの町紙の博物館	平成28年11月2日(水)～ 11月13日(日)
	アートアワードコレクションより－美の挑戦者 たち－	香美市立美術館	平成28年11月5日(土)～ 12月18日(日)
	第 22 回潮風のキルト展	(特非) NPO 砂浜美術館	平成28年11月11日(金)～ 11月13日(日)
	いの町の紙を使って ～マザーテレサ(祝・列・聖)～ ～楽・閑・旅(絵葉書的巴里)～	いの町紙の博物館	平成28年11月19日(土)～ 12月4日(日)
公募作品展 第 18 回 OUR ギャラリー展	(公財)やなせたかし記念アン パンマンミュージアム振興財団	平成28年11月19日(土)～ 平成29年1月9日(月・祝)	
映画	シネマの食堂 2016 オープニング上映会 映画「モヒカン故郷に帰る」と沖田修一監督トークライブ	高知県映画上映団体ネットワーク	平成28年9月30日(金)
	シネマ・サンライズ第 200 回記念上映会 「ヒマラヤ杉に降る雪」(スコット・ヒックス監督)	シネマ・サンライズ	平成28年10月23日(日)
	シネマな夜 VOL.201 「シャトープリアンからの手紙」 (フォルカー・シュレンドルフ監督)	シネマ・サンライズ	平成28年11月16日(水)

高知県立のいち動物公園・ どうぶつ科学館	19,454	今年、7才から85才までの幅広い世代から動物部門、ファミリー部門合わせて254点の応募があり、審査の結果選ばれた入賞作品72点をどうぶつ科学館に展示。いろいろな動物一瞬の動きをとらえた作品は、来場者にも大変好評であった。
高知市文化プラザかるぽーと・ 7階市民ギャラリー第3展示室	520	ライブパフォーマンスと展示会を開催。当初計画にはなかった金高堂書店前でのゲリラパフォーマンスも実施し、大きな人だかりとなった。会期終了後、描いた作品の一部は、セブンデイズホテルプラスや同書店に展示され、高知に確かな足跡を残していった。
中土佐町立美術館	879	高齢者が多く来館したが、みなさんに楽しんでいただけた。展示終了後も本展を目的に来館された方も数名いて、残念がっていた。
いの町紙の博物館	2,852	世界で活躍する4人のアーティストによる展示会。土佐和紙を使った作品も展示され、一流のアーティストが新たな挑戦をする面白さや土佐和紙の可能性を発信することができた展示会であった。
いの町紙の博物館	2,115	中田耕一氏による墨絵展。土佐和紙に描いた雪舟や鳥獣戯画などの模写作品を含む墨絵約40点が展示されました。壁一面を覆うほどの大きな作品が会場を埋め尽くし、その迫力は来館者のみなさまにも好評でした。
室戸市美術展覧会	662	公募展を開催し、洋画の部23点、日本画の部11点、書道の部(漢字)20点(仮名・調和体)11点、写真の部53点、陶芸の部32点、彫塑・工芸・デザインの部27点、漫画の部4点の応募があり、各部門ごとに審査後、展示を行った。
いの町紙の博物館	969	元航空技術者のリチャード・アンセル氏による展示会。大正から昭和にかけて使われていた新聞社機をテーマに、コンピューターで緻密で彩りも鮮やかに描かれた飛行機図など約50点が展示されました。
香美市立美術館	1,340	ジーンズファクトリーの協力を得て、県内外から集められた現代美術の大型作品のコレクションはこれまでにない展示で、驚きとともに受けとめられた。また会期中に森村泰昌氏の講演会も開催されて大変好評であった。
砂浜美術館	2,788	会期中は天候に恵まれ、松原とらっきょう畑、キルト作品が創り出す、すばらしい風景を、多くの方に楽しんでいただくことができた。企画展のキルトクッションと流木いす、漂流ビン等のインスタレーションやはぎれを使ったハガキづくりワークショップも、とても好評だった。
いの町紙の博物館	1,151	写真家百瀬恒彦氏による展示会。いの町の和紙に乳剤を塗って昔ながらの印刷紙を作成、それを使って作られた作品約40点が展示され、暗室での作業の様子も放映されました。
香美市立やなせたかし記念館・ 別館	2,545	全国の3歳から89歳までの方から応募のあった「あかいろ(赤色、レッド)」がテーマの5/7/5調の詩と絵をかいたはがき作品全626点を展示。来場者からは「個性豊かで感動した」などの感想が寄せられた。
高知県立美術館・ 中庭	180	シネマの食堂メイン上映会として、食と映画の組み合わせの普段にはない上映形態で実施しました。監督トークライブも開催し、映画と一緒に楽しんでいただきました。野外上映は雨のためホールに変更になりましたが、カフェの出店も好評でした。
高知県立美術館ホール	147	太平洋戦争下のアメリカで、日系移民たちが置かれた収容などの過酷な歴史を踏まえ、運命に翻弄されたイシュマエルとハツエの恋、ハツエの夫がかけられた殺人の嫌疑をはらすため、イシュマエルが越えなければならなかった過去の恩讐、人種的偏見や差別に曇ることのない民主主義への信頼を描いた感動作。旧作なので、入場者はさほど多くはなかったが、100人程度の皆さんにも映画に深い造詣を持つ十河さんの興味深いお話を聞いていただくことができた。本作は後に、2016年高知オフシアター・ベストテン第一位に選出された。
高知県立美術館ホール	129	1941年、ナチス占領下のフランスで一人のドイツ将校が暗殺されたことに対し、ナチスが報復として収容所にいるフランス人150名の銃殺を命令した史実に基づき、命令を受けたパリ司令部のドイツ軍人たち、フランスの行政官、刻々と迫る処刑に勇気を持って臨もうとする収容所の人々、実際に銃殺にあたったドイツ兵らの群像を重層的に描き、戦争の残酷さ・理不尽さを強く訴える作品だった。

映 画	異色映画傑作選③ 「あの日のように抱きしめて」 (クリスティアン・ベッツォルト監督)	シネマ・サンライズ	平成28年11月26日(土)
文 芸	生誕 130 周年 特別企画展 「吉井勇・今戸益喜」～二人の絆～	香美市立吉井勇記念館	平成28年7月27日(水)～ 12月26日(月)
	四国漢詩連盟 高知大会	四国漢詩連盟	平成28年10月16日(日)
	しきなみ短歌の世界 (初めての短歌教室)	家庭倫理の会・高知	平成28年11月13日(日)
伝 統 文 化	伝統文化音楽 地唄・箏曲・尺八本曲演奏会 「日本の四季」より	琴古流尺八竹童社藤寿会高知支部	平成28年11月3日(木・祝)
	八代青年奉納歌舞伎	八代青年会	平成28年11月5日(土)
	創立 5 周年記念 平成 28 年 風雅を楽しむ秋の集い	鵬翔流吟友会	平成28年11月5日(土)
	正曲一絃琴白鷺会 秋の演奏会	正曲一絃琴白鷺会	平成28年11月12日(土)
	第 70 回秋季いけばな県展	(一社) 高知県華道協和会	平成28年11月12日(土)・13日(日)
	和泉流宗家による 第 3 回 高知狂言の会	狂言 和泉流宗家	平成28年11月21日(月)
漫 画	2016 高知のまんがあれこれ展 & 4 コマまんが大賞作品展	横山隆一記念まんが館	平成28年10月22日(土)～ 平成29年1月15日(日)
	まんさいーこうちまんがフェスティバル 2016	こうちまんがフェスティバル 2016 実行委員会 他	平成28年10月29日(土)・30日(日)
総 合 文 化	四万十市文化祭	四万十市文化祭執行委員会	平成28年9月3日(土)～ 12月17日(土)
	夜の動物公園 のいち de ナイト プロジェクションマッピング 「ヒカルいのちの WA !」	(公財)高知県のいち動物公園協会	平成28年9月18日(日)・10月9日(日)

メフィストシアター (大橋通西詰、喫茶「メフィスト フェレス」内)	60	戦争の終わったベルリン、顔にひどい傷を負いながらも強制収容所から生還した妻と、整形して変貌した妻に気がつかない夫。妻は夫に自分の素性を告げることが出来ず、夫は彼女に妻の財産を相続するため身代わりになってくれと持ちかける…。男と女の複雑な心理の綾を描いたミステリー。小品ながら、ミニシアターで上映するのがふさわしい作品だった。
香美市立吉井勇記念館	848	展示期間中、幅広い年齢層の方々にご来館いただき、また関連行事として静岡県立大学・細川光洋氏による講演会を開催するなど、多くの方に吉井勇と彼の交流や絆について知っていただく機会となりました。
高知商工会館	120	四国四県が持ち回りで行うこの大会は、今年は高知県で行われた。特別優秀作品八首の表彰、披露、土佐史談会会長・宅間一之先生の講演、香美市大橋に伝わる「はっさん踊り」等、来場者には好評を得たと思われる。概ね成功裏に終えることができた。
高知市立自由民権記念館	42	講師による短歌を作る事の素晴らしさの講話と、その後グループ(5、6人)による共同作業による作歌を楽しく行いました。作った歌を合唱し、講師の朗詠もあり、和やかな楽しい勉強会が出来ました。参加者のうち18名が未会員の方で、しきなみ短歌に入会して頂けたり、又短歌作りに取り組んで下されば嬉しいです。
高知県立歴史民俗資料館	33	演奏参加は高知工科大生や南国市の日章地区「糸・竹」教室の参加を得て平均年齢が若返り賑やかな演奏で、にわか作りの演奏会場ではあるが若年者の感想は、毛氈等華やかな装飾の中での演奏経験はなく緊張の中、高揚した気分で楽しく参加出来た旨感想を得た。次回開催への期待と糧を抱く事が出来た。
八代八幡宮・回り舞台	300	例年よりも多くの方々に入場頂き、とても活気のある神祭になりました。他地域の方も比較的多く、WEB上に写真や動画等がアップされるといった反応もありました。地域の一体感を感じ取ってもらえる機会となりました。
高知商工会館	100	今年は、中国三大詩人の一人「李白」の世界と日本の名将乃木希典の軍人として人としての精神の美を構成吟で吟じ風雅のひと時をお楽しみ頂き、又、明徳中・高校より12名の生徒さんが出演下さり、澁刺とした立派な吟で若い世代への普及へもつなげるうれしい会でした。
高知市文化プラザかるぼーと・ 2階小ホール	約 155	県内外より多数の観客が有り、満席となりました。今回初めての試みとして民謡と巖上の松を十三絃琴と合奏致しました。一絃琴の演奏は源氏物語「明石の巻」から明石曲をソロは秋の調べ等、全8曲を演奏致しました。今後共、良い演奏ができます様、ますます精進してゆく覚悟です。
高知市文化プラザかるぼーと・ 7階第1第2展示室	2,303	・加盟20流派の会員・子弟により、大小149点のいけばな作品を展示し、2303名に来場いただき無事終了することができました。 ・高知工科大学留学生等19名により、いけばな体験教室を実施いたしました。
高知県立美術館・能楽堂	300	狂言(伝統芸能)初心者という方が楽しんで鑑賞し、その体験をもとに継続的に親しんでいくための公演として、狂言上演に加え解説、お稽古体験&トークの構成で第三回目の公演を実施した。次回への開催要望も多く、入場者の内訳から愛好者の広がりを感じることができた。
横山隆一記念まんが館・企 画展示室	1,875	2016年に紹介された高知のまんがや、まんがを活用した活動などを紹介した第1部と、4コマまんが大賞の入賞作品・一次審査通過作品を展示した第2部に加え、特別展示として新しく発見された横山隆一資料を展示しました。期間中に行った体験イベントにも多くの方に参加いただき、楽しんでいただけたと思います。
高知市文化プラザかるぼーと/ 他	12,402	当日は天候にも恵まれ、延べ40,000人に近い参加者で賑わいました。ステージイベントには、声優やまんが家を多数迎え会場は熱気に包まれました。その他「村岡マサヒロすみっこであいましょう」など子どもから大人まで楽しめるメニューや企業ブース、映画上映など盛りだくさんの2日間でした。
四万十市立文化センター/ 四万十市立中央公民館/他	11,573	今年度の文化祭は、9月3日～12月17日までの期間で、34団体が参加し、延べ1万人以上の入場者数があった。長期間の開催ではあったが、事故もなく無事終了することができた。
高知県立のいち動物公園・ どうぶつ科学館	約 4200	夜のイベントだけに光は重要な要素で、数年前に比べてクオリティーがあがっていると喜んでいただけたようです。今後も動物園に親しみを持ってもらえるように進化しながら継続していきたいと思っています。

総合文化	第 11 回香美市芸術祭	香美市芸術祭実行委員会	平成28年10月1日(土)～11月20日(日)
	平成 28 年度 第 45 回 高知県教育文化祭	高知県教育文化祭運営協議会	平成28年10月2日(日)～11月23日(水・祝)
	浜口さんちの秋祭り	(一社) さかわ観光協会	平成28年10月8日(土)・9日(日)
	第 21 回 宿毛市オールドパワー文化展と女のまつり	宿毛市教育委員会 宿毛市老人クラブ連合会 宿毛市文化協会	平成28年10月14日(金)～10月16日(日)
	放送大学高知学習センター芸術文化祭 2016	放送大学高知学習センター	平成28年10月29日(土)・30日(日)
	第 22 回日高村文化祭	日高村文化推進協議会	平成28年11月3日(木・祝)
	第 48 回春野町文化祭	高知春野文化協会	平成28年11月4日(金)～11月6日(日)
	第 43 回いの文化祭	伊野地区文化協会	平成28年11月5日(土)・6日(日)
	平成 28 年度 高知県高等学校総合文化祭	高知県高等学校文化連盟	平成28年11月10日(木)～11月20日(日)
	第 9 回さかわ・酒蔵ロード劇場 2016	(一社) さかわ観光協会	平成28年11月19日(土)
社交としての音楽の回帰 －華麗なるラテンとジャズの響宴－	高知ビッグ・バンド	平成28年12月4日(日)	

中央公民館、 香美市立美術館 ほか	俳句会・短歌会(10月1日)20/写真審査会(10月4日)28/社交ダンス発表会(10月10日)180/芸能大会物部会場(10月16日)150/山田会場(10月1日)200/文化展(10月22日、23日)721/土佐山田町合唱団定期演奏会(11月20日)173	俳句短歌会から土佐山田町合唱団定期演奏会まで多くの催しが開催されました。文化協会や市民の皆様の日ごろの精進の成果を発表しお互いに切磋琢磨することができました。各会場とも多くの皆様に参加いただき感動を共有し交流を深めました。
高知県立県民文化ホール / 高知市文化プラザかるぽーと / 高知大学 / 高知県教育センター / 高知市立自由民権記念館 / 土佐リハビリテーションカレッジ 等	約 4200	「光る感性 たたえよう 土佐の教育文化」のテーマのもと 14 行事を開催。今年も、子どもたちの教育文化活動をたたえるとともに、その成果を多くの県民の皆さんに知っていただくことができました。
旧浜口邸周辺	350	さかわ・酒蔵の道にある旧浜口邸で開かれる秋祭り。今年①牧野公園散策とアサギマダラ観察会 ②秋の山野草で彩った古民家でお抹茶点出し ③ミニライブとワークショップ ④上町歩き体験のイベントを実施。町内外の皆様は佐川町上町地区の魅力を知っていただく機会を設けることができました。
宿毛市立宿毛文教センター	宿毛市オールドパワー展 340/ 女のまつり 230	60 歳以上を対象とした文化展と宿毛市老連女性部が歌や舞踊、和太鼓など、練習の成果を披露する「女のまつり」で構成された発表会。文化展の出品数は123点、女のまつりは昨年より3演目減ったものの18演目の発表があった。
放送大学高知学習センター	90	美術展覧会、ワークショップ(句会・バードコール作り)、バザー、サークル・同好会による催しなどを開催しました。来場者のアンケートでは多くの方が「楽しかった」と回答しており、大好評でした。
日高村社会福祉センター	412	文化・芸能分野において、村内最大のイベントであり、村民の間でも楽しみの一つになっている。出演者の方も小学生から高齢者の方まで幅広く熱心に日々研鑽した演技や踊り等を発表し、観客を沸かせた。
高知市春野文化ホール・ピアステージ	3,712	展示:写真、絵画、書道、手工芸など出展作品延べ855点 高知春野文化協会会員、春野町民、町内小中児童生徒、幼保育園児、デコの里、デイサービス、グループホームなど 舞台発表:高知春野文化協会会員の詩吟、合唱、日踊、和太鼓、箏曲、民踊、フラダンス等、うららか保育園マーチング、小学生合唱、郷土芸能など出演者は延べ352名
いのホール、伊野公民館	500	今年会場を伊野公民館といのホールに展示部門と舞台部門に分けて開催し、会場に多少の余裕ができた。舞台部門では出演に小学生の落語、舞踊及び大学生の演劇が加わった。そして展示部門による出品数も増加し、賑わいを見せた。
高知市文化プラザかるぽーと 高知県立追手前高校芸術ホール	2,313	高知市文化プラザかるぽーと及び高知追手前高等学校芸術ホールをメイン会場として16部門(音楽、吹奏楽、演劇、美術・工芸、書道、写真、舞踊、放送、漫画、囲碁、将棋、新聞、茶道、郷土芸能、文芸、軽音楽)を実施し、参加校49校、参加生徒2313人であった。毎年11月中旬に実施されており、多くの方々へ高校生の日頃の文化部活動の成果を発表することができた。
さかわ酒蔵の道	5,000	江戸時代の風情漂う佐川町上町地区の白壁の建物に光の切り絵や絵画などの芸術作品を投影し、一夜限りの光の劇場を作り上げた。音楽との融合も図り、大人から子供まで楽しめるイベントとなった。結果、5000名のお客様へお越しいただき、佐川町上町地区の魅力を知っていただく機会を設けることができた。
城西館	180	ビッグバンドスタイルによるディナーパーティーを開催。曲目を重ねるのに合わせるように。来場者が一体となり、プレイヤーと共に音と踊りを楽しむ姿が現出。高齢者のダンスフロアでの競演が一般来場者を更に乗せた感がありました。

<資料>

※共催・協賛行事参加申請の様式(平成28年度用)

第1号様式
平成28年度第66回高知県芸術祭参加申請書
平成28年 月 日
高知県芸術祭実行委員長 様

団体名(行事主催団体)
住所 〒
代表者氏名 〇

平成28年度高知県芸術祭に、下記の行事を(共催・協賛)行事として申請します。
なお、参加行事として認められた場合、行事についてガイドブック、インターネット等(Facebook、TwitterなどのSNSを含む)での情報掲載、公開について同意いたします。

①部 門	〇をつけてください。わからない場合はお問い合わせください。 演劇 舞踊・ダンス 音楽 美術 映画 放送 映像 文芸 伝統文化 漫画 総合文化
②行 事 名	
③日 程	月 日() から 月 日() まで
④会 場 名	
⑤入 場 料 等 (どちらかに〇)	無料 有料 (料金を下記にお書きください)

申請結果や内容確認、ガイドブックの校正、ガイドブック送付など事務連絡をさせていただく際の窓口となる方のご連絡先を下記にお書きください。

通 絡 先 *指書でお書き ください	①(ふりがな) お名前	〒 -
	②住所	() - (自宅・職場)
	③連絡がとりやすい お電話番号	*連絡がとりやすい時間があればお書きください
	④メールアドレス	@

上記連絡先を問い合わせ先としてフレット、インターネット等に掲載することに同意(します・しません)条件がある場合、または、上記とは異なる問い合わせ先を希望する場合は、下記に内容をお書きください。

第2号様式
団体の概要
(会則、規則、組織図など団体の概要が詳しく分かる資料があれば提出してください)

(ふりがな) 団体名	設立年月日	年 月 日
(ふりがな) 代表者氏名	会 員 数	人 (年 月 日現在)
団体住所 (団体住所がない場合は、代表者住所) 〒 -	TEL	FAX
主要な活動内容 普段の活動内容や場所、年間の行事などをお書きください。		

平成28年度第66回高知県芸術祭パンフレット 原稿 (1)

◆下記欄に必要事項をお書きください。
◆欄が足りない場合は別紙でもかまいません。(①から⑥まで番号をつけてお書きください。)

①行 事 名 称	
②(ふりがな) 主催団体名称	
③開 催 日 時	月 日() ~ 月 日() 開始時間 時 分 / 終了時間 時 分 複数回ある場合などは下記欄にお書きください。
④会 場 名 ・ 所 在 地	会場名 会場所在地
⑤入 場 料 ・ 参 加 費 等	(無料 ・ 有料) *どちらかに〇をおつけください ◆有料の場合、下記に料金をお書きください。前売・当日、大人・子どもなどの区分がある場合はそれぞれの料金をお書きください。

平成28年度第66回高知県芸術祭パンフレット 原稿 (2)

⑥行 事 の 概 介 文
(150字以内)

*パソコン等で記入される場合は罫線を消していただいても構いませんが、150字以内でお願いします。

⑦ ご意見・ご要望	
--------------	--

◆行事・団体のホームページ: 無・有 (http://www.)
◆芸術祭または文化財団のIPとリンク: 可・不可

平成28年度高知県芸術祭執行委員会 委員名簿

(H26.4 ~ H29.3.31)

役 職	氏 名 (五十音順)	所 属 職 名 等
委 員 長	新納 朋代	(株) テレビ高知 編成局編成業務部長代理 編成担当
副委員長	竹村 直也	タケムラデザインアンドプランニング代表 NPO 蛸蔵 理事長
委 員	川浪 千鶴	高知県立美術館 学芸課長
委 員	佐々木かおり	すさきまちかどギャラリー (NPO 法人暮らすさき所属)・ 地域移住サポーター
委 員	中越 令子	デザイナー
委 員	中平 順子	イラストレーター 国際デザイン・ビューティカレッジ講師
委 員	福田 佐和	株式会社フタガミ
委 員	松本 志帆子	藁工ミュージアム 学芸スタッフ
委 員	吉田 剛治	横山隆一記念まんが館 係長

平成28年度文芸賞審査員

短編小説	杉本 雅史	短歌	市川 敦子
	米沢 朝子		梶田 順子
	若江 克己		中野 百世
詩	猪野 睦	俳句	橋田 憲明
	小松 弘愛		松林 朝蒼
	長尾 軫		味元 昭次
		川柳	小笠原 望
			窪田 和広
			西川 富恵

※五十音順、敬称略